

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

宮 大 医 医 第 74 号
令 和 4 年 10 月 5 日
開設者名 国立大学法人 宮崎大学長
鮫 島 浩

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
氏名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

宮崎大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地
電話(0985) 85 - 1510

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
・脳神経内科で神経内科の診療を実施。 ・感染症内科でアレルギー科の診療を実施。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	形成外科	5	脳神経内科
6	糖尿病内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36				596	632

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	327	96	379.3	看護補助者	103	診療エックス線技師	0	
歯科医師	15	0	15	理学療法士	18	臨床検査 臨床検査	臨床検査技師	52
薬剤師	51	0	51	作業療法士	7		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	8		その他	0
助産師	20	2	21.3	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	557	38	586.2	臨床工学士	19	医療社会事業従事者	6	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	62	
歯科衛生士	8	0	8	歯科技工士	1	事務職員	120	
管理栄養士	9	0	9	診療放射線技師	33	その他の職員	18	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	44	眼科専門医	9
外科専門医	30	耳鼻咽喉科専門医	5
精神科専門医	6	放射線科専門医	11
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	21
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	19
産婦人科専門医	12	救急科専門医	13
		合計	223

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (帖佐 悦男) 任命年月日 令和 3 年 10 月 1 日

平成17年10月1日～現在(医療安全管理委員会委員)
 平成19年4月1日～平成21年10月1日(医療安全管理部長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	448.9 人	11.1 人	460 人
1日当たり平均外来患者数	997.5 人	100.3 人	1097.8 人
1日当たり平均調剤数		2546.8	剤
必要医師数		105.9	人

必要歯科医師数	8	人
必要薬剤師数	32	人
必要(准)看護師数	269	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	414.4 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	16 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	276.4	㎡	病床数	16 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積				㎡
	[共用室の場合]	共用する室名	薬剤部 医薬管理室・薬剤管理指導室			
化学検査室	334 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体前処理装置、生化学自動分析装置(TBA2000FR,TBA-FX8)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動免疫測定装置(i2000SR、cobas8000、e411)		
細菌検査室	87.2 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室		
病理検査室	184.2 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、ThinPrep、Fish装置、全自動密閉式パラフィン包埋装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、遠心分離機、マイクローム、スライドプリンター、ドラフト装置、セーフティラック、組織自動カセット印字機、恒温器、伸展器、温浴器、純水製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX、排気機能付き切り出し台、撮影装置、フローユニット、凍結切片作製装置、安全キャビネット		
病理解剖室	52.5 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、ストレッチャー、ホルマリン排気バケツBOX、解剖用骨切断鋸装置、パソコン、モニター、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚		
研究室	2,650 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、書庫、机 ほか		
講義室	553 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	2 室	收容定員	475 人
図書室	1,908 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	6 室	蔵書数	125,929 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	94.7	%	逆紹介率	101.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		9,443		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,443		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,215		人
	D: 初診の患者の数		11,251		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院安全管理 部部長	○	医療安全管理識見者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所弁護士		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体就労支援 アストモス代表		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本院のHP	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	23
LDLアフェレシス療法	1
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	43
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0
先進医療の種類合計	4
取り扱い患者数合計(人)	67

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究(LC-SCRUM-Asia)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 IV期または術後再発の特定の遺伝子異常を持つ非小細胞肺癌に対し、分子標的薬が非常に有効であり、長期的な予後延長を見込める(最も一般的な遺伝子変異EGFRの分子標的薬で18.9か月の延命効果あり)。多くの肺癌症例でスクリーニングをかけて、治療法が判明していない稀な遺伝子異常を検出し、新薬治療の治験を進めていく必要がある。がんセンター東病院を基幹施設とし、肺癌の遺伝子検査を行う研究である。			
医療技術名	ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)陽性膠原病リウマチ性疾患専門外来	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 HTLV-1感染症のある膠原病リウマチ性疾患患者の診療			
医療技術名	重症熱性血小板減少症(SFTS)ウイルス感染症早期診断検査試薬の改良・開発研究	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 致死的ウイルス感染症であるSFTSの早期診断試薬の改良及び開発を進めている。			
医療技術名	アドレノメデュリンを用いたCOVID-19による機械換気を要する肺炎の重症化予防—医師主導治験PhaseII試験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 COVID-19肺炎重症患者におけるアドレノメデュリンの重症化予防, 有用性の検討			
医療技術名	アドレノメデュリンを用いたCOVID-19による中等症肺炎の重症化予防—医師主導治験PhaseII試験	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 COVID-19肺炎中等症患者におけるアドレノメデュリンの重症化予防, 有用性の検討			
医療技術名	超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 ERCP困難・不能例に対する超音波内視鏡を用いた胆道ドレナージ術を施行する。経胃的に肝内胆管にアプローチするEUS-HGSと経十二指腸球部的に肝外胆管にアプローチするEUS-CDSを施行している。前者は十二指腸狭窄・閉塞例に対して、後者は肝内胆管拡張が認められない例など施行している。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 尋常性ざ瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			

医療技術名	Nested PCRによる細菌または真菌に起因する難治性の眼感染症に対する迅速診断	取扱患者数	70
当該医療技術の概要 難治性眼感染症の起炎菌を、nested PCRの手法を用いて検索する。			
医療技術名	DVC1-0401網膜下投与による網膜色素変性に対する視細胞保護遺伝子治療の第I/IIa相医師主導治験	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 網膜色素変性に対し遺伝子治療薬DVC1-0401を網膜下に注入し、神経栄養因子hPEDFを過剰発現させ、安全性および視機能障害の進行を評価する効果を検討する医師主導治験。			
医療技術名	難聴遺伝子解析	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 保険診療で検出されなかった遺伝子変異を解析			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	内視鏡を用いた顎骨嚢胞に対する低侵襲手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 比較的大きな顎骨嚢胞の場合は、内視鏡を用いることで切開、骨削除範囲を最小限にすることで侵襲の少ない手術が可能となる。			
医療技術名	マイクロスコープを用いた低侵襲抜歯術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 マイクロスコープを用いて抜歯を行うことにより、切開、骨削除等の身体的侵襲が少ない治療を行うことができる。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	新生児脳低温療法	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 新生児脳低温療法(BHT)は、低酸素性虚血性脳症(HIE)による恒久的な脳障害を予防あるいは軽減する目的で始められた治療法である。生後6時間以内に治療を開始し、目標深部温度34℃まで冷却する。指標は、食道温や直腸温を用いる。BHT施行中は、各種モニタリングを行い、体温管理と同時に呼吸循環、血液凝固、電解質、感染、痙攣などに注意する。冷却時間は72時間で復温を開始する。			

医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	156
当該医療技術の概要			
<p>遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。保険収載されたBRCA1/2遺伝学的検査に関する連携協定を県内の医療施設と結んでおり、現在の連携施設数は14施設である。</p>			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	21
取扱い患者数の合計(人)	391

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	下垂体性PRL分泌亢進症	33
2	筋萎縮性側索硬化症	13	57	クッシング病	5
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
4	パーキンソン病	76	59	下垂体前葉機能低下症	123
5	大脳皮質基底核変性症	1	60	先天性副腎皮質酵素欠損症	6
6	ハンテントン病	3	61	先天性副腎低形成症	1
7	シャルコー・マリー・トゥース病	1	62	アジソン病	3
8	重症筋無力症	61	63	サルコイドーシス	74
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	46	64	特発性間質性肺炎	29
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	65	肺動脈性肺高血圧症	16
11	封入体筋炎	3	66	慢性血栓性肺高血圧症	12
12	クロー・深瀬症候群	1	67	リンパ脈管筋腫症	3
13	多系統萎縮症	13	68	網膜色素変性症	15
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	20	69	バッド・キアリ症候群	3
15	ライソゾーム病	8	70	原発性胆汁性肝硬変	26
16	副腎白質ジストロフィー	2	71	原発性硬化性胆管炎	2
17	ミトコンドリア病	2	72	自己免疫性肝炎	19
18	もやもや病	17	73	クローン病	234
19	プリオン病	1	74	潰瘍性大腸炎	283
20	HTLV-1関連脊髄症	8	75	好酸球性消化管疾患	4
21	全身性アミロイドーシス	13	76	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
22	神経線維腫症	26	77	若年性特発性関節炎	1
23	天疱瘡	18	78	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	1
24	表皮水疱症	1	79	非典型溶血性尿毒症症候群	1
25	膿疱性乾癬(汎発型)	15	80	筋ジストロフィー	6
26	中毒性表皮壊死症	2	81	脊髄空洞症	1
27	高安動脈炎	12	82	脊髄髄膜瘤	1
28	巨細胞性動脈炎	1	83	アイザックス症候群	1
29	結節性多発動脈炎	5	84	先天性無痛無汗症	1
30	顕微鏡的多発血管炎	25	85	アレキサンダー病	1
31	多発血管炎性肉芽腫症	9	86	レノックス・ガストー症候群	1
32	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	87	スタージ・ウェーバー症候群	1
33	パージャール病	2	88	結節性硬化症	8
34	全身性エリテマトーデス	149	89	色素性乾皮症	3
35	皮膚筋炎／多発性筋炎	90	90	先天性魚鱗癬	1
36	全身性強皮症	70	91	家族性良性慢性天疱瘡	1
37	混合性結合組織病	32	92	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16
38	シェーグレン症候群	44	93	特発性後天性全身性無汗症	4
39	成人ステル病	12	94	弾性線維性仮性黄色腫	2
40	再発性多発軟骨炎	2	95	マルファン症候群	3
41	ベーチェット病	52	96	エーラス・ダンロス症候群	3
42	特発性拡張型心筋症	25	97	ウィルソン病	3
43	肥大型心筋症	17	98	低ホスファターゼ症	1
44	再生不良性貧血	9	99	ウィリアムズ症候群	1
45	自己免疫性溶血性貧血	3	100	ヌーナン症候群	1
46	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	101	総動脈幹遺残症	1
47	特発性血小板減少性紫斑病	9	102	修正大血管転位症	1
48	原発性免疫不全症候群	7	103	完全大血管転位症	2
49	IgA腎症	26	104	単心室症	4
50	多発性嚢胞腎	12	105	三尖弁閉鎖症	1
51	黄色靱帯骨化症	16	106	ファロー四徴症	4
52	後縦靱帯骨化症	80	107	両大血管右室起始症	1
53	広範脊柱管狭窄症	3	108	一次性ネフローゼ症候群	30
54	特発性大腿骨頭壊死症	68	109	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
55	下垂体性ADH分泌異常症	20	110	紫斑病性腎炎	4
				間質性膀胱炎(ハンナ型)	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	オスラー病	1	131		
112	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	132		
113	フェニルケトン尿症	1	133		
114	イソ吉草酸血症	1	134		
115	肝型糖原病	1	135		
116	システロール血症	2	136		
117	家族性地中海熱	3	137		
118	強直性脊椎炎	9	138		
119	骨形成不全症	2	139		
120	軟骨無形成症	1	140		
121	後天性赤芽球癆	1	141		
122	遺伝性膀胱炎	1	142		
123	IgG4関連疾患	6	143		
124	黄斑ジストロフィー	2	144		
125	レーベル遺伝性視神経症	1	145		
126	好酸球性副鼻腔炎	39	146		
127	大理石骨病	1	147		
128	特発性多中心性キャッスルマン病	2	148		
129	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	2	149		
130			150		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	129
合計患者数(人)	2302

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 患者サポート体制充実加算
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 特定機能病院入院基本料 精神病院(13対1)	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 救急医療管理加算	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 超急性期脳卒中加算	・ データ提出加算2
・ 診療録管理体制加算1	・ 入退院支援加算1
・ 医師事務作業補助体制加算1 (15対1)	・ 入退院支援加算の注7に規定する入院時支援加算
・ 急性期看護補助体制加算 (25対1)(看護補助者5割以上)	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算の注2に規定する夜間100対1急性期看護補助体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 急性期看護補助体制加算の注3に規定する夜間夜間看護体制加算	・ 精神科急性期医師配置加算2
・ 看護職員夜間配置加算 (12対1配置加算1)	・ 地域医療体制確保加算
・ 看護補助加算2	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 療養環境加算	・ 救命救急入院料1
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 救命救急入院料の注2のイに規定する精神疾患診断治療初回加算
・ 無菌治療室管理加算1	・ 救命救急入院料の注3に規定する救急体制充実加算1
・ 無菌治療室管理加算2	・ 救命救急入院料の注6に規定する小児加算
・ 放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ 特定集中治療室管理料2
・ 緩和ケア診療加算	・ 特定集中治療室管理料の注2に規定する小児加算
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 特定集中治療室管理料の注4に規定する早期離床・リハビリテーション加算
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室管理料)
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料 (新生児集中治療室管理料)
・ 栄養サポートチーム加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 医療安全対策加算1	・ 小児入院医療管理料2
・ 感染対策向上加算1	・ 小児入院医療管理料の注2に規定するプレイルーム加算
・ 感染対策向上加算1の注2に規定する指導強化加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ がん患者指導管理料イ	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・ がん患者指導管理料ロ	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ がん患者指導管理料ハ	・ 遺伝学的検査
・ がん患者指導管理料ニ	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・ 外来緩和ケア管理料	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 精密触覚機能検査
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ BRCA1/2遺伝子検査
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ 二次性骨折予防継続管理料1	・ 先天性代謝異常症検査
・ 院内トリアージ実施料	・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・ 外来放射線照射診療料	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ ニコチン依存症管理料	・ 検体検査管理加算(IV)
・ 療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・ 国際標準検査管理加算
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・ 遺伝カウンセリング加算
・ がん治療連携計画策定料	・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ 薬剤管理指導料	・ 胎児心エコー法
・ 医療機器安全管理料1	・ ヘッドアップティルト試験
・ 医療機器安全管理料2	・ 人工臓器検査、人工臓器療法
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 精神科退院時共同指導料1	・ 単線維筋電図
・ 精神科退院時共同指導料2	・ 神経学的検査
・ 歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ 補聴器適合検査

施設基準の種類	施設基準の種類
・黄斑局所網膜電図	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・全視野精密網膜電図	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・ロービジョン検査判断料	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・コンタクトレンズ検査料1	・手術用顕微鏡加算
・内服・点滴誘発試験	・う蝕歯無痛の窩洞形成加算
・CT透視下気管支鏡検査加算	・CAD/CAM冠
・ポジトロン断層撮影	・手術時歯根面レーザー応用加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・歯科技工加算1及び2
・CT撮影及びMRI撮影	・センチネルリンパ節加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
・外来化学療法加算1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・椎間板内酵素注入療法
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・呼吸器リハビリテーション料の注3に規定する初期加算	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・歯科口腔リハビリテーション料2	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・医療保護入院等診療料	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・口腔粘膜処置	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・硬膜外自家血注入	・網膜再建術
・人工腎臓	・人工中耳植込術

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外衝撃波胆石破碎術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下肝切除術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・体外衝撃波腓石破碎術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・生体腎移植術
・胸腔鏡下弁形成術	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下弁置換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的中心隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・体外式膜型人工肺管理料
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術

<ul style="list-style-type: none">・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	<ul style="list-style-type: none">・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
--	---

施設基準の種類	施設基準の種類
・輸血管理料Ⅰ	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・歯科矯正診断料
・コーディネート体制充実加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離開等)の手術前を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・自己生体組織接着剤作成術	・
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・
・同種クリオプレシピテート作製術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・レーザー機器加算	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・高エネルギー放射線治療	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	検査部：168回 病理部：200回	
剖検の状況	剖検症例数(例)	24
	剖検率(%)	11.01

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
経カテーテル大動脈弁留置周術期の総合的血栓形成能評価法による至適抗血栓療法の確立	海北 幸一	循環器内科	2,427,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
大動脈瘤化の分子機序の解明	鶴田 敏博	循環器内科	1,170,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
末梢血単球の糖代謝モニタリングを用いた糖尿病性動脈硬化進展予防スキームの構築	松浦 祐之介	循環器内科	1,040,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
骨髄増殖性腫瘍におけるエピゲノム異常の役割	上運天 綾子	血液内科	1,430,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
マウスモデルによるATLL腫瘍形成メカニズムの解明と腫瘍幹細胞プロファイルの同定	亀田 拓郎	血液内科	1,690,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
小胞体ストレス応答と、腫瘍由来fibrocyteに着目する骨髄増殖性腫瘍研究	下田 和哉	血液内科	5,980,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
遺伝子異常の全貌とクローン構造の理解に基づくATL個別化診療の確立	下田 和哉	血液内科	23,400,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
シングルセル免疫動態解析によるHTLV-1感染状態・関連疾患における宿主-病原体相互作用の統合的理解	下田 和哉	血液内科	2,600,000	補	国立研究開発法人 国立がん研究センター
IFN α シグナル伝達および腎病変の形成機構に着目した骨髄増殖性腫瘍の病態制御	田平 優貴	血液内科	1,430,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
CALR変異幹細胞の増幅機構及び変異体の機能モチーフを標的とした骨髄線維症の制御	幣 光太郎	血液内科	1,300,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
遺伝子発現制御法を用いた多発性硬化症の成因解明	中里 祐毅	脳神経内科	1,430,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
薬剤耐性真菌対策を含めた侵襲性真菌症の革新的検査と治療法に関する研究開発 分担研究開発課題名: カンジダ症に対する新規治療法の開発	宮崎 泰可	呼吸器内科	780,000	補	国立大学法人長崎大学
病原真菌カンジダにおける多剤耐性機序の解明とその克服	宮崎 泰可	呼吸器内科	2,241,572	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
1細胞解析結果に基づく肺癌の発癌責任間葉サブクラスターとCAF起源細胞の決定	柳 重久	呼吸器内科	2,730,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
オクタン酸トリグリセリドを用いた呼吸不全カヘキシア包括的治療法の開発研究	松元 信弘	呼吸器内科	1,430,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
早期特発性肺線維症患者に対するニンテダニブ投与の安全性と忍容性に関する解析	松元 信弘	呼吸器内科	242,000	補	国立大学法人長崎大学
経時的感染者検体の多角的・高精細研究アプローチによるHTLV病原性発現機序解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	650,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
HTLV-1陽性関節リウマチの炎症病態におけるIFNシグネチャーの解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	1,430,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	300,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	1,300,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝硬変、NASH発症・進展に果たす造血細胞の関与の解明と新たな治療標的の確立	大園 芳範	消化器内科	1,560,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究	永田 賢治	消化器内科	400,000	委	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
パーキンソン病モデルラットのアロディニアに関連した線条体アストロサイトの機能解析	石田 康	精神科	1,170,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
市町村単位で介入可能な自殺予防要因の探求	香田 将英	精神科	1,170,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
日本におけるナースプラクティショナーの展開に向けた費用対効果等のアウトカム研究	香田 将英	精神科	650,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
光遺伝学を用いた慢性の痒み成立機序へのヘモキニン-1の関与についての研究	船橋 英樹	精神科	780,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
小児急性リンパ性白血病発症にかかわる遺伝学的背景の検討	盛武 浩	小児科	200,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
FAK阻害薬の骨原発悪性腫瘍への早期臨床応用実現を目標とした転移抑制機構の解明	盛武 浩	小児科	1,300,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
小児急性骨髄性白血病(de novo AML)に対する標準的治療法の確立 分担研究開発課題名:再発及び寛解導入不能AMLに対する観察研究 AML-R15の遂行	盛武 浩	小児科	260,000	補	国立大学法人京都大学

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児難治性白血病のエネルギー代謝解析	木下 真理子	小児科	780,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
全身型若年性特発性関節炎難治例におけるCRIPAK遺伝子変異解析	西村 豊樹	小児科	1,300,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
胆管癌の局所制御増強と光線過敏軽減による普及を目指した次世代光線力学的療法の開発	七島 篤志	肝胆膵外科	1,560,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
母親由来キメラ細胞の定量的解析による胆道閉鎖症の病因究明と予後予測研究	梶屋 隆太	消化管・内分泌・小児外科	1,040,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
食道癌に対する光線力学療法による薬剤耐性軽減効果の証明と新規治療開発に向けた検証	甲斐 健吾	消化管・内分泌・小児外科	1,040,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	古川 貢之	心臓血管外科	65,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
J-ORCHESTRA Study (J-Open caRdiac aortic arCH DisEase replacement Surgical TheRApy Study)	古川 貢之	心臓血管外科	66,000	補	J-OSG研究会
分子結合技術を用いた新たな造影剤による革新的がんMRI画像化技術の開発	富永 洋平	呼吸器・乳腺外科	130,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
人工股関節に異常歩行が及ぼす作用の解明とカスタムメイドモデル開発への応用	大内 宏輝	整形外科	780,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
健康に与えるロコモティブシンドロームの影響に関する研究	帖佐 悦男	整形外科	1,560,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
エビデンスに基づいたロコモティブシンドロームの対策における簡便な確認・介入方法の確立と普及啓発体制の構築に資する研究	帖佐 悦男	整形外科	4,657,000	委	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
ロコモティブシンドロームの評価法の開発	帖佐 悦男	整形外科	2,000,000	補	小林市立病院
腎癌に対するニボルマブ治療の有効性および安全性を予測する遺伝子多型の同定(SNiP-RCC研究)	賀本 敏行	泌尿器科	44,000	補	一般社団法人九州臨床研究支援センター
骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対するラジウム-223治療の多施設共同前向き観察研究(KYUCOG-1901)	賀本 敏行	泌尿器科	27,500	補	一般社団法人九州臨床研究支援センター
自然発症腎形成不全マウスを用いた腎尿路発生の遺伝学的機序の解明	賀本 敏行	泌尿器科	910,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ヒト化マウスの泌尿器癌モデルを用いた膜結合型タンパクの機能解析と新規治療法の確立	向井 尚一郎	泌尿器科	1,560,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
新規ゼノグラフトモデルを用いた前立腺癌治療効果予測マーカーの開発	藤井 将人	泌尿器科	1,170,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
前立腺癌におけるHumanized HGF SCIDマウスを用いた新規治療の開発	寺田 直樹	泌尿器科	1,040,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
網膜色素変性を自然発症するカニクイザルの病態解明と繁殖に向けた準備	池田 康博	眼科	650,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
網膜色素変性の炎症を制御する障害関連分子パターンとその受容機構の解明	池田 康博	眼科	65,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
網膜色素変性に対する視細胞保護遺伝子治療の医師主導治験	池田 康博	眼科	31,460,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜色素変性の進行を抑制するスタチン封入ナノ粒子薬の開発	池田 康博	眼科	1,500,200	補	国立大学法人九州大学
リバスジルを用いた未熟児網膜症に対する新規点眼薬の開発	池田 康博	眼科	2,600,000	補	国立大学法人九州大学
緑内障評価のための電気生理学的手法に基づくPhNRの研究	日高 貴子	眼科	910,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
MFTを用いた内耳奇形スクリーニング法の確立	中村 雄	耳鼻いんこう・頭頸部外科	520,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
核酸クロマトグラフィーを用いた沖縄版ペンドレッド症候群迅速遺伝子診断法の確立	我那覇 章	耳鼻いんこう・頭頸部外科	2,080,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
難治性聴覚障害に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻いんこう・頭頸部外科	500,000	委	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
周産期脳障害に対するマグネシウムのプレコンディショニング効果に関する基礎的研究	鮫島 浩	産科・婦人科	650,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
電子密度画像と神経膠腫の細胞密度の相関性の検討	東 美菜子	放射線科	1,170,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
分子結合技術を用いた新たな造影剤による革新的がんMRI画像化技術の開発	東 美菜子	放射線科	130,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
静脈血栓塞栓の質的診断に繋がるDual-energyCTによる血栓の成分解析	古小路 英二	放射線科	1,040,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
麻酔薬および血管収縮薬投与時の末梢静脈径の変化に関する研究	恒吉 勇男	麻酔科	260,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
オプトジェネティクスを用いた神経障害性疼痛モデルマウスの作製と疼痛機序の解明	丸田 豊明	麻酔科	1,430,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
メチル化アレイ法によるグリオーマ上皮間葉転換メカニズムの解明	竹島 秀雄	脳神経外科	3,640,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
神経膠芽腫において代謝経路再編成が細胞増殖や治療抵抗性に与える機序の解明	渡邊 孝	脳神経外科	1,170,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
口腔扁平上皮癌におけるリンパ節転移の新規遺伝子診断アルゴリズムの確立	山下 善弘	歯科口腔外科	1,560,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
小児慢性特定疾患児の口腔疾患と口腔・腸内細菌叢・慢性疾患との関連を解明する	永田 順子	歯科口腔外科	1,430,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
胎盤血栓症における組織因子、プロテアーゼ活性化受容体の役割	佐藤 勇一郎	病理診断科	1,430,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
産科危機的出血をきたす癒着胎盤におけるプロテアーゼ活性化受容体の局在と機能	阿萬 紫	病理診断科	1,300,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
口腔扁平上皮癌の発がんにおけるセリンプロテアーゼ活性制御の意義に関する研究	山本 晃士	病理診断科	2,080,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
肺癌における膜型セリンプロテアーゼとそのインヒビターの機能解析	田中 弘之	病理診断科	2,210,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
南海トラフ地震における災害医療対応シミュレーション・システムの開発	落合 秀信	救急科	65,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
筋骨格系脆弱化におけるHMGB2に基づく間葉系細胞の分化制御機構	李 徳哲	救急科	1,560,000	委	科学研究費助成金(文部科学省)
消化器癌に対する全身化学療法施行時に発生した無症候性静脈血栓塞栓症に対するエドキサバンの安全性および有効性を検討する他施設共同前向き介入研究(ExCAVE study)	細川 歩	臨床腫瘍科	30,000	補	北海道消化器癌化学療法研究会(HGCSG)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
敗血症における血管リモデリングを標的とした新規治療薬の検討	矢野 武志	集中治療部	520,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
壊死性腸炎根絶を目指したアドレノメデュリンによる革新的予防・治療法の開発	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	650,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
行動解析に基づく中心静脈カテーテル挿入手技の標準化に向けたトレーニングの開発	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	65,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
HGFクラスターエフェクトによる治療戦略-壊死性腸炎の救世主になり得るか?	中目 和彦	総合周産期母子医療センター	65,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
低酸素性虚血性脳症におけるミクログリアでのLOX-1の役割解明と新規治療法の開発	青木 良則	総合周産期母子医療センター	1,889,413	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
人工知能技術の医療経営分析への応用プロセスを記録できる診療概念辞書の構築	荒木 賢二	病院IR部	1,040,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
複数項目の値の変動に依存し動的に出現が変化する項目の予測の実現と評価	荒木 賢二	病院IR部	624,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
CRP 遺伝子多型と食道がんリンパ節転移に関する多施設共同後ろ向き観察研究	武野 慎祐	光学医療診療部・消化器病センター	176,000	補	国立大学法人秋田大学
医療行為の結果を質向上する多施設共同カイゼン研究デザインの確立に関する研究	綾部 貴典	医療安全管理部	130,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
熊本地震で被災した子どものPTSD症状と発達障がい特性との関連についての研究	大平 洋明	卒後臨床研修センター	260,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
明らかな骨量減少をきたすItpr1遺伝子トランプマウスの機能解析	山口 洋一朗	リハビリテーション部	1,040,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
精神疾患患者に対する運動療法の効果と地域移行へ向けた有効性の検討	荒川 英樹	リハビリテーション部	910,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
がん微小環境による抗がん薬耐性機序解明と新規分子標的薬の開発	池田 龍二	薬剤部	650,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
ニーマン・ピック病C型の臨床課題を克服する次世代型コレステロール輸送療法の構築	山田 侑世	薬剤部	1,690,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)
オートファジー細胞死を標的とする新規肺腺癌治療薬の開発	南 謙太郎	薬剤部	1,430,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
免疫抑制薬の新規薬物動態制御理論に基づくリバーストランスレーショナルリサーチ	吉川 直樹	薬剤部	1,300,000	委	科学研究費助成金 (文部科学省)

計 89

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shohei Koyama, Atsushi Yamashita, Yunosuke Matsuura et	循環器内科	Intracellular glutamine level determines vascular smooth muscle cell-derived thrombogenicity	Atherosclerosis. 2021 Jul; 328:62-73	Original Article
2	Johji Kato, Yukiko Kawagoe, Danfeng Jiang et al.	循環器内科	Plasma adrenomedullin level and year-by-year variability of body mass index in the general population	Peptides. 2021 Aug; 142:170567	Original Article
3	Koji Sakata, Sho Matsuyama, Nagomi Kurebayashi et al.	循環器内科	Differential effects of the formin inhibitor SMIFH2 on contractility and Ca ²⁺ handling in frog and mouse cardiomyocytes	Genes to Cells. 2021 Aug; 26(8):583-595	Original Article
4	Koichi Kaikita, Satoshi Yasuda, Masaharu Akao et al.	循環器内科	Bleeding and Subsequent Cardiovascular Events and Death in Atrial Fibrillation With Stable Coronary Artery Disease: Insights From the AFIRE Trial	Circ Cardiovasc Interv . 2021 Nov; 14(11):e010476	Original Article
5	Takaya Takeuchi, Yunosuke Matsuura, Yoshimasa Yamamura et al.	循環器内科	A likely unavoidable clinical scenario during treatment for venous thromboembolism complicated with severe immune thrombocytopenia: A case report	Clinical Case Reports. 2021 Sep 18; 9(9):e04805	Case report
6	Toshihiro Tsuruda, Yoshimasa Higashi, Toshihiro Gi et al.	循環器内科	Pericardial effusion in the course of Fabry disease cardiomyopathy: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2021 Oct 7; 5(10):ytab407	Case report
7	Toshihiro Kita, Kazuo Kitamura.	循環器内科	Translational studies of adrenomedullin and related peptides regarding cardiovascular diseases	Hypertens Res. 2022 Mar; 45(3):389-400	Review
8	Yunosuke Matsuura, Masami Shimizu- Albergine, Shelley Barnhart et	循環器内科	Diabetes Suppresses Glucose Uptake and Glycolysis in Macrophages	Circ Res. 2022 Mar 4; 130(5):779-781	Case report
9	Toshihiro Kita, Kazuo Kitamura.	循環器内科	Adrenomedullin Therapy in Moderate to Severe COVID-19	Biomedicines. 2022 Feb 24; 10(3):533	Review
10	Tatsunori Toida,Reiko Toida, Risa Takahashi et al.	腎臓内科	Impact of polypharmacy on all-cause mortality and hospitalization in incident hemodialysis patients: a cohort study	Clin Exp Nephrol. 2021 Nov; 25(11):1215-1223	Original Article

11	Shoko Ochiai, Akihiro Minakawa, Akihiro Fukuda et al.	腎臓内科	Dural arteriovenous fistula following cerebral venous sinus thrombosis in a patient with minimal change disease: A case report	Clin Nephrol. 2021 Dec; 96(6):348-352	Case report
12	Kazuya Shimoda, Yoshinori Ozono, Kotaro Shide.	血液内科	Fibrocytes in primary myelofibrosis	Oncotarget. 2021 Sep 28; 12(20):2101-2103	Review
13	Takuro Kameda, Kotaro Shide, Yuki Tahira et al.	血液内科	Prognosis of Indolent Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma	Viruses. 2022 Mar 29; 14(4):710	Original Article
14	Katsuya Sakai, Kazutaka Shiomi, Hitoshi	脳神経内科	Human liver-expressed antimicrobial peptide 2 elevation in the cerebrospinal fluid in bacterial meningitis	Brain Behav. 2021 May; 11(5):e02111	Original Article
15	Weidong Zhang, Hideyuki Sakoda, Yuki Nakazato et	脳神経内科	Neuromedin U uses G α i2 and G α o to suppress glucose-stimulated Ca ²⁺ signaling and insulin secretion in pancreatic β cells	PLoS One. 2021 Apr 15; 16(4):e0250232	Original Article
16	Takashi Sugiyama, Naoya Murao, Hisae Kadowaki et	脳神経内科	ERAD components Derlin-1 and Derlin-2 are essential for postnatal brain development and motor function	iScience. 2021 Jun 19; 24(7):102758	Original Article
17	Takashi Sugiyama, Nobuyuki Ishii, Yuka Ebihara et al.	脳神経内科	Detailed Analysis of Neurological Symptoms and Sensory Disturbances Due to Chronic Arsenic Exposure in Toroku, Japan	Int J Environ Res Public Health. 2021 Oct 13; 18(20):10749	Original Article
18	Nobuhiro Matsumoto, Hironobu Tsubouchi, Kensuke Setoguchi et al.	呼吸器内科	Clinico-radiologic Characteristics of Pulmonary Visceral Larva Migrans Caused by Ascaris suum	Intern Med. 2021 Sep 15; 60(18):2899-2903	Original Article
19	Kensuke Setoguchi, Shigehisa Yanagi, Toshihiro Gi et al.	呼吸器内科	Transition From Distinct Types of KRAS Mutation-Harboring Multifocal Lung Adenocarcinoma to Rhabdoid Tumor: A Longitudinal Follow-Up	Am J Case Rep. 2021 Aug 25; 22:e932452	Case report
20	Ryota Tanida, Hironobu Tsubouchi, Shigehisa Yanagi et al.	呼吸器内科	GHS-R1a deficiency mitigates lipopolysaccharide-induced lung injury in mice via the downregulation of macrophage activity	Biochem Biophys Res Commun. 2022 Jan 22; 589:260-266	Original Article
21	Yushiro Endo, Shoichi Fukui, Kunihiko Umekita et al.	膠原病・感染症内科	Effectiveness and safety of non-tumor necrosis factor inhibitor therapy for anti-human T-cell leukemia virus type 1 antibody-positive rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2021 Sep; 31(5):972-978	Original Article
22	Takeshi Kawaguchi, Kunihiko Umekita, Atsushi Yamanaka et al.	膠原病・感染症内科	Corticosteroids May Have Negative Effects on the Management of Patients with Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: A Case-Control Study	Viruses. 2021 Apr 28; 13(5):785	Original Article

23	Kosho Iwao, Takeshi Kawaguchi, Masatoshi Kimura et al.	膠原病・感染症内科	Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Accompanied by Invasive Pulmonary Aspergillosis: An Autopsy Case	Viruses. 2021 Jun 7; 13(6):1086	Case report
24	Yayoi Hashiba, Kunihiko Umekita, Masatoshi Kimura et al.	膠原病・感染症内科	High incidence of serious infections requiring hospitalisation in human T- cell leukaemia virus type 1- positive rheumatoid arthritis: A case-controlled observational study	Mod Rheumatol. 2021 Oct 16; roab077	Original Article
25	Sho Suzuki, Hiroshi Kawakami, Tadashi Miike et al.	消化器内科	A novel endoscopic submucosal dissection training model using skinned chicken meat with gel	Endoscopy. 2021 Sep; 53(9):E334- E335	Case report
26	Hiroshi Kawakami, Hiroshi Hatada, Yoshimasa Kubota et al.	消化器内科	Pancreatic perforation and fistula caused by pancreatic spontaneous dislodgement stent: an endoscopic rescue technique	Endoscopy. 2021 Nov; 53(11):E398- E400	Case report
27	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Tesshin Ban et al.	消化器内科	A duodenoscope anchoring technique in a case of difficult scope intubation due to scope-pyloric ring misalignment	Endoscopy. 2021 Dec; 53(12):E455- E456	Case report
28	Souichiro Ogawa, Hiroshi Kawakami, Sho Suzuki et	消化器内科	Metachronous Esophageal Ulcers after Immune-mediated Colitis Due to Immune Checkpoint Inhibitor Therapy: A Case Report and Literature	Internal Medicine. 2021 Sep 1; 60(17):2783-2791	Review
29	Nobuko Kuroishi, Sayaka Nagata, Emiko Akashi	消化器内科	Development of a novel human adrenomedullin derivative: human serum albumin-conjugated adrenomedullin	J Bioche. 2021 Dec 4; 170(4):445-451	Original Article
30	Kenichi Nakamura, Kazunori Kusumoto, Yoshinori Ozono et al.	消化器内科	Frailty Status Predicts New Long-term Care Insurance Certification in Hepatitis C Patients Receiving Antiviral Therapy	Anticancer Research. 2021 Aug; 41(8):4127-4131	Original Article
31	Shinya Ashizuka, Toshihiro Kita, Haruhiko	消化器内科	Adrenomedullin: A Novel Therapeutic for the Treatment of Inflammatory Bowel Disease	Biomedicines. 2021 Aug 23; 9(8):1068	Review
32	Yu Miyahara, Hideki Funahashi, Ayaka Haruta- Tsukamoto et	精神科	Roles of 5-HT 3 and 5-HT 7 receptors in acute pruriceptive processing in mice	Eur J Pharmacol. 2021 Nov 15; 911:174513	Original Article
33	Yu Miyahara, Hideki Funahashi, Ayaka Haruta- Tsukamoto et	精神科	Time course of effects of venlafaxine on migraine and generalized pruritus in a patient with depression	Clin Case Rep. 2021 Nov 16; 9(11):e05088	Case report

34	Masahide Koda, Nahoko Harada, Akifumi Eguchi et al.	精神科	Reasons for Suicide During the COVID-19 Pandemic in Japan	JAMA Network Open. 2022 Jan 4; 5(1):e2145870	Original Article
35	Ai Yamada, Mariko Kinoshita, Sachiyo Kamimura et al.	小児科	A Metastatic Neuroblastic Tumor in a 28-Month-old Boy: Unusual Spontaneous Regression From Neuroblastoma to Ganglioneuroma?	J Pediatr Hematol Oncol. 2022 Mar 1; 44(2):e589-e592	Case report
36	Yusuke Saito, Mariko Kinoshita, Ai Yamada et al.	小児科	Mannose and phosphomannose isomerase regulate energy metabolism under glucose starvation in leukemia	Cancer Sci. 2021 Dec; 112(12):4944-4956	Original Article
37	Mariko Kinoshita, Ai Yamada, Yusuke Saito et al.	小児科	Successful treatment with rituximab for autoimmune cytopenia after autologous hematopoietic stem cell transplantation	Pediatr Int. 2022 Jan; 64(1):e14975	Original Article
38	Shun Nagasawa, Ai Yamada, Mariko Kinoshita et al.	小児科	Successful treatment of paraspinal/spinal epidural lymphoma by early intervention and local control with proton beam	Pediatr Int. 2022 Jan; 64(1):e14970	Original Article
39	Atsushi Nanashima, Yukinori Tanoue, Tatefumi Sakae et al.	肝胆膵外科	Relationship between hepatic venous anatomy and hepatic venous blood loss during hepatectomy	Surg Today. 2021 Dec; 51(12):1953-1968	Original Article
40	Atsushi Nanashima, Masanori Komi, Naoya Imamura et al.	肝胆膵外科	Novel analysis using magnetic resonance cholangiography for patients with pancreaticobiliary maljunction	Surg Today. 2022 Mar; 52(3):385-394	Original Article
41	Risa Sakamoto, Kengo Kai, Masahide Hiyoshi et al.	肝胆膵外科	Spontaneous common bile duct perforation due to choledocholithiasis accompanied with pancreaticobiliary maljunction in an adult: a case report	Surg Case Rep. 2021 Sep 8; 7(1):205	Case report
42	Atsushi Nanashima, Yukinori Tanoue, Naoya	肝胆膵外科	Rare resected eight cases of duodenal adenocarcinomas	Int J Surg Case Rep . 2021 Sep; 86:106384	Case report
43	Atsushi Nanashima.	肝胆膵外科	Queries regarding the optimal indication of infrahepatic inferior vena cava clamping and proposal for examining the hepatic venous pressures or accompanied Trendelenburg position to improve this procedure	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Mar; 29(3):e15-e16	Letter
44	Atsushi Nanashima, Masanori Komi, Marija Mavar et al.	肝胆膵外科	A 3D Quantitative MRC Modeling Images Detected Case of Intrahepatic Biliary Stricture Diseases	Case Rep Gastroenterol. 2021 Jul 26; 15(2):680-688	Case report
45	Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, Naoya	肝胆膵外科	Recent Advances in Photodynamic Imaging and Therapy in Hepatobiliary Malignancies: Clinical and Experimental Aspects	Curr Oncol. 2021 Oct 11; 28(5):4067-4079	Original Article

46	Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, Naoya	肝胆膵外科	Preoperative Prognostic Nutritional Index is a significant predictive factor for posthepatectomy bile leakage	Ann Hepatobiliary Pancreat Surg. 2021 Nov 30; 25(4):477-484	Original Article
47	Fumiaki Kawano, Kousei Tashiro, Makoto Ikenoue et al.	消化管・内分泌・小児外科	Current status of trauma surgery at a Japanese prefectural academic institute: improved organization in a regional prefecture	Surgery Today. 2021 Jun; 51(6):1001-1009	Original Article
48	Kengo Kai, Naoya Imamura, Masahide Hiyoshi et al.	消化管・内分泌・小児外科	Usefulness of intraoperative contrast-enhanced ultrasonography in laparoscopic enucleation of small pancreatic metastases from renal cell carcinoma: A case report	Asian J Endosc Surg. 2022 Jan; 15(1):211-215	Case report
49	Ryuta Masuya, Kina Miyoshi, Kazuhiko Nakame et al.	消化管・内分泌・小児外科	Laparoscopic repositioning of an aberrant right hepatic artery and hepaticojunostomy for pediatric choledochal cyst: A case report	Int J Surg Case Rep. 2021 Sep; 86:106300	Case report
50	Mayu Inomata, Kengo Kai, Takuto Ikeda	消化管・内分泌・小児外科	An adult case of a retroperitoneal isolated enteric duplication cyst with the imaging changes over time	Surg Case Rep. 2021 Dec 16; 7(1):258	Case report
51	Fumiaki Kawano, Shun Munakata, Kousei Tashiro et al.	消化管・内分泌・小児外科	Knowledge survey regarding blast wound education of student doctors at a local academic medical university in Japan [Japonya'daki yerel bir tıp fakültesinde doktor adayların in patlamaya bağlı yaralanmalar hakkındaki bilgi düzeyleri ü zerine bir anket çalışması]	Turkish Journal of Surgery. 2022 Mar 28; 2022; 38 (1): 74-80	Original Article
52	Masanori Nishimura, Atsushi Yamashita, Yunosuke Matsuura et	心臓血管外科	Upregulated Kynurenine Pathway Enzymes in Aortic Atherosclerotic Aneurysm: Macrophage Kynureninase Downregulates Inflammation	J Atheroscler Thromb. 2021 Nov 1; 28(11):1214-1240	Original Article
53	Koji Furukawa, Mitsuhiko Yano, Hirohito Ishii et al.	心臓血管外科	Influence of preoperative right ventricular function on left ventricular remodeling and survival after subvalvular repair for functional mitral	Heart and Vessels. 2021 Jul; 36(7):1064-1071	Original Article
54	Kousuke Mori, Hirohito Ishii, Shuhei Sakaguchi et	心臓血管外科	Successful Surgical Repair of Type A Acute Aortic Dissection in a Patient with Vascular Ehlers-Danlos Syndrome	Annals of Vascular Diseases. 2022 Mar 25; 15(1):58-61	Case report
55	Risa Sakamoto, Tomoka Hamahiro,	呼吸器・乳腺外科	Recurrent solitary fibrous tumor of the pleura with malignant transformation: a case report	Journal of Surgical Case Reports. 2021 Jul 6; 2021(7):rjab283	Case report
56	Daisuke Hara, Tomoka Hamahiro, Ryo Maed et	呼吸器・乳腺外科	Pulmonary torsion after resuscitative thoracotomy: a case report	Journal of Surgical Case Reports. 2021 Jul 19; 2021(7):rjab313	Case report
57	Tomoka Hamahiro, Ryo Maeda, Takanori Avabe et al.	呼吸器・乳腺外科	Primary mucinous adenocarcinoma of the thymus: A case report	Respiratory Medicine Case Reports. 2021 Aug; 12;34:101497	Case report

58	Masaki Tomita, Shoei Kuroki, Tomoka	呼吸器・乳腺外科	Impact of Preoperative Serum Tumor Markers in Patients with Lung Squamous Cell Carcinoma	Advances in Lung Cancer. 2021 Sep; 10: 48-55	Original Article
59	Hiroshi Ito, Kejiro Hori, Yosuke Niimi et al.	形成外科	Twin Tower-shaped Anastomosis: Two Comitant Veins Anastomosed to a Single Recipient Vein in an End-to-end Fashion	Journal of Plastic and Reconstructive Surgery. 2022 Jan 27; 1(1): 20-25	Case report
60	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	Surgical Wound Complications after Knee Cruciate Ligament Reconstruction in Patients with Atopic Dermatitis	Journal of Knee Surgery. 2021 Sep; 34(11):1237-1242	Original Article
61	Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Yudai Morita et al.	整形外科	Clinical and Radiographic Outcomes of Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction for Asian Patients with Bone-Patellar Tendon-Bone and Gracilis Tendon Grafts: A Matched-Control Comparison	Journal of Knee Surgery. 2021 Dec; 34(14):1545-1554	Original Article
62	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	Internal Fixation of a Lateral Inverted Osteochondral Fracture of the Talus (LIFT) Lesion Using an Innovative Surgical Approach: Inverting the Capsulo-Lateral Fibulotalocalcaneal Ligament (LFTCL)-Fibular Periosteum	Journal of Foot and Ankle Surgery. Sep-Oct 2021; 60(5):1054-1059	Case report
63	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Hiroshi Sugimura et al.	整形外科	Predictors of Spondylolysis on Magnetic Resonance Imaging in Adolescent Athletes With Low Back Pain	Orthopaedic Journal of Sports Medicine. 2021 Apr 9; 9(4):2325967121995466	Original Article
64	Tsunemasa Kita, Takuya Tajima, Etsuo Chosa.	整形外科	Turner's syndrome associated with discoid lateral meniscus and Blount's disease: a case report	BMC Musculoskeletal Disorders. 2021 May 15; 22(1):449	Case report
65	Deokcheol Lee, Tomofumi Kuroki, Takuya Nagai et al.	整形外科	Sarcopenia, Ectopic Fat Infiltration into the Lumbar Paravertebral Muscles, and Lumbo-Pelvic Deformity in Older Adults Undergoing Lumbar Surgery	Spine (Phila Pa 1976). 2022 Jan 15; 47(2):E46-E57	Original Article
66	Yuzhu Wang, Go Yamako, Takato Okada et al.	整形外科	Biomechanical effect of intertrochanteric curved varus osteotomy on stress reduction in femoral head osteonecrosis: a finite element analysis	Journal of Orthopaedic Surgery and Research. 2021 Jul 23; 16(1):465	Original Article
67	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	The current clinical practice of general orthopaedic surgeons in the treatment of lateral ankle sprain: a questionnaire survey in Miyazaki, Japan	BMC Musculoskeletal Disorders. 2021 Jul 24; 22(1):636	Original Article
68	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	A case of nail-patella syndrome with osteochondral lesion of the lateral femoral condyle accompanied with anomalies of anterior horns of the menisci and lateral femoral condyle	Journal of Orthopaedic Science. 2021 Oct 21; S0949-2658(21)00331-6	Case report
69	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Shuichi Kawagoe et al.	整形外科	The Ratio of Stress to Nonstress Anterior Talofibular Ligament Length on Ultrasonography: Normative Values	Orthopaedic Journal of Sports Medicine. 2021 Nov 19; 9(11):23259671211056305	Original Article

70	Takuji Yokoe, Takuya Tajima, Nami Yamaguchi et al.	整形外科	Association between the Beighton Score and Stress Ultrasonographic Findings of the Anterior Talofibular Ligament in Healthy Young Women: A Cross-Sectional Study	Journal of Clinical Medicine. 2022 Mar 22; 11(7):1759	Original Article
71	Yotaro Nishikawa, Shiho Kanemaru, Aina Mori et al.	皮膚科	Adult T-cell leukemia/lymphoma with pagetoid reticulosis-like skin lesions	International Journal of Dermatology. 2021 Sep; 60(9):e342- e344	Letter
72	Yotaro Nishikawa, Tomohiro Fukaya, Takehito Fukui et al.	皮膚科	Congenital Deficiency of Conventional Dendritic Cells Promotes the Development of Atopic Dermatitis-Like Inflammation	Frontiers in Immunology. 2021 Jul 27; 12:712676	Original Article
73	Isamu Otsuka, Kazutaka Kida, Naoki Terada et al.	泌尿器科	Malignant pheochromocytoma with liver invasion treated successfully by combined retroperitoneal laparoscopic control of arterial in-flow followed by open hepatectomy: A case report	Int J Surg Case Rep. 2021 Apr; 81:105763	Case report
74	Takahiro Akioka, Naoki Terada, Hiroki Takamori et	泌尿器科	A case of von Hippel-Lindau disease with renal cell carcinoma treated by partial nephrectomy with pre- and post-surgical axitinib therapy	Urology Case Reports. 2021 Oct 30; 40:101925	Case report
75	Naohiro Sugita, Narantsog Choijookhuu, Koichi Yano et al.	眼科	Depletion of high-mobility group box 2 causes seminiferous tubule atrophy via aberrant expression of androgen and estrogen receptors in mouse testis†	Biology of reproduction. 2021 Dec 20; 105(6):1510-1520	Original Article
76	Takahiro Nakashima, Akira Ganaha, Shougo Tsumagari et	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Is the Conductive Hearing Loss in NOG-Related Symphalangism Spectrum Disorder Congenital?	ORL. 2021 May; 83(3):196-202	Case report
77	Takumi Okuda, Shinsuke Ide, Kei Kajihara et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	A Case of Amelanotic Malignant Melanoma of the Lingual Base That Was Diagnosed Based on a Biopsy of Late Metastasis to a Lumbar Vertebra after Being Misdiagnosed as HPV-Positive Oropharyngeal Anterior Wall	Case Rep Otolaryngol. 2021 Sep 30; 2021:7139280	Case report
78	Akira Ganaha, Eiji Hishinuma, Tadashi Kaname et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Rapid Genetic Diagnosis for Okinawan Patients with Enlarged Vestibular Aqueduct Using Single- Stranded Tag Hybridization Chromatographic Printed- Array Strip	J Clin Med. 2022 Feb 19; 19;11(4):1099	Original Article
79	Kei Kajihara, Akira Ganaha, Keiji Matsuda et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Active Middle Ear Implant in a Patient with Neurofibromatosis Type 1 and Multiple Calvarial Defects: A Case Report	Journal of International Advanced Otolology. 2022 Mar;	Case report
80	Yohei Maki, Seishi Furukawa, Tetsuo Nakayama et al.	産科・婦人科	Clinical chorioamnionitis criteria are not sufficient for predicting intra-amniotic infection	Journal of Maternal- Fetal and Neonatal Medicine. 2022 Jan; 35(1):52-57	Original Article

81	Shinji Katsuragi.	産科・婦人科	Relationship between Birth Weight and Future Cardiovascular Risks in Japanese in View of the Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD) Theory	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2022 Feb 1; 29(2):146-147	Others
82	Junsuke Muraoka, Yuki Kodama, Marie Higashi	産科・婦人科	A case of facial cellulitis caused by group B streptococcus in an extremely low birthweight infant	Journal of Infection and Chemotherapy. 2021 Sep; 27(9):1369-1372	Case report
83	Masatoki Kaneko, Junsuke Muraoka, Kazumi Kusumoto et al.	産科・婦人科	Low Maternal Immunoglobulin G Avidity and Single Parity as Adverse Implications of Human Cytomegalovirus Vertical Transmission in Pregnant Women with Immunoglobulin M Positivity	Viruses. 2021 May 9; 13(5):866	Original Article
84	Tomoko Goto, Yuichiro Sato, Yuki Kodama	産科・婦人科	Association between fetal vascular malperfusion and gestational diabetes	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Jan; 48(1):80-86	Original Article
85	Minako Azuma, Hiroshi Nakada, Keiji	放射線科	Conditional unnecessary of head CT for whole-body CT of traffic accident victims: a pilot study	Emerg Radiol. 2021 Apr; 28(2):273-278	Original Article
86	Minako Azuma, Kanako K Kumamaru, Toshinori	放射線科	A National Survey on Safety Management at MR Imaging Facilities in Japan	Magn Reson Med Sci. 2021 Dec 1; 20(4):347-358	Original Article
87	Masatsugu Kawano, Minako Azuma, Yohei Hattori et al.	放射線科	Short-term experience with aspiration embolectomy using a ACE68 reperfusion catheter to treat embolic superior mesenteric artery occlusion	Emerg Radiol. 2021 Jun; 28(3):675-678	Case report
88	Minako Azuma, Zaw Aung Khant, Masami Yoneyama et al.	放射線科	Evaluation of cervical ossification of the posterior longitudinal ligament with 3D broadband IR-prepared ultrashort echo-time imaging: a pilot study	Jpn J Radiol. 2021 May; 39(5):487-493	Original Article
89	Minako Azuma, Zaw Aung Khant, Yoshihito Kadota et al.	放射線科	Added Value of Contrast-enhanced 3D-FLAIR MR Imaging for Differentiating Cystic Pituitary Adenoma from Rathke's Cleft Cyst	Magn Reson Med Sci. 2021 Dec 1; 20(4):404-409	Original Article
90	Minako Azuma, Yoshihito Kadota, Misayo Matsuyama et al.	放射線科	3D fat-suppressed T1-weighted volume isotropic turbo spin-echo acquisition (VISTA) imaging for the evaluation of the ectopic posterior pituitary gland	Jpn J Radiol. 2021 Jun; 39(6):564-570	Original Article
91	Youhei Hattori, Minako Azuma, Hiroshi Nakada et al.	放射線科	Usefulness of Virtual Monochromatic Images and Iodine Maps Derived from Dual-Energy Computed Tomography for Diagnosing Deep Neck Abscesses	J Comput Assist Tomogr. 2021 Jul-Aug 01; 45(4):625-628	Original Article
92	Minako Azuma, Hiroshi Nakada, Zaw Aung Khant et al.	放射線科	Virtual Noncontrast Images Derived From Contrast-Enhanced Dual-Layer Spectral Abdominal Computed Tomography: A Pilot Study Between Pediatric and Adult Scans	J Comput Assist Tomogr. 2022 Jan-Feb 01; 46(1):71-77	Original Article

93	Go Otao, Toyoaki Maruta, Isao Tsuneyoshi.	麻酔科	Comparison of opioid local anesthetic combination regimens using the number of self-administrated boluses in patient-controlled epidural analgesia after cesarean section: A retrospective	Medicine (Baltimore). 2021 Apr 30; 100(17):e25560	Original Article
94	Go Otao, Toyoaki Maruta, Tetsu Yonaha et al.	麻酔科	The usefulness of plasma levels of mature and total adrenomedullin as biomarkers indicating the magnitude of surgical stress responses: A single-center, prospective, observational study	J Clin Transl Res. 2021 May 14; 7(3):302-310	Original Article
95	Yuuki Suematsu, Takashi Watanabe, Hideo Takeshima.	脳神経外科	Posterior Petrous Meningioma Fed by a Branch of the Persistent Trigeminal Artery Terminating in the Anterior Inferior Cerebellar Artery	World Neurosurgery. 2021 Jun; 150:110-113	Case report
96	Takashi Watanabe, Yuuki Suematsu, Kiyotaka Saito et al.	脳神経外科	selection of surgical approach for cerebellar hemangioblastomas based on venous drainage patterns	Neurosurgical Review. 2021 Dec; 44(6):3567-3579	Original Article
97	Fumitaka Matsumoto, Hideo Takeshima, Shinji Yamashita et al.	脳神経外科	Epidemiologic study of primary brain tumors in Miyazaki prefecture: A regional 10-year survey in southern Japan	Neurologia Medico-Chirurgica. 2021 Aug 15; 61(8):492-498	Original Article
98	Yu Yamaguma, Naohiro Sugita, Narantsog Choiiookhuu	歯科口腔外科・矯正歯科	Crucial role of high-mobility group box 2 in mouse ovarian follicular development through estrogen receptor beta	Histochemistry and Cell Biology . 2022 Mar; 157(3):359-369	Original Article
99	Toshihiro Gi, Atsushi Yamashita, Murasaki Aman et al.	病理診断科	Tissue factor expression and tumor-infiltrating T lymphocytes in ovarian carcinomas and their association with venous thromboembolism	Pathol Int. 2021 Apr; 71(4):261-266	Original Article
100	Kazunari Maekawa, Takako Tokumitsu, Hiroshi Noguchi et al.	病理診断科	Glioblastoma mimicking metastatic small cell carcinoma: A case report with ultrastructural findings	Diagn Cytopathol. 2021 Aug; 49(8):E291-E296	Case report
101	Koji Yamamoto, Yohei Maki, Yuichiro Sato et al.	病理診断科	Multiple cardiac rhabdomyomas not associated with tuberous sclerosis in a dizygotic twins: a case report	Journal of Medical Case Reports. 2021 Jul 5; 15(1):334	Case report
102	Koji Yamamoto, Fumiki Yamashita, Makiko Kawaguchi et al.	病理診断科	Decreased prostasin expression is associated with aggressiveness of oral squamous cell carcinoma	Human Cell. 2021 Sep; 34(5):1434-1445	Original Article

103	Hiroshi Noguchi, Takako Tokumitsu, Eiteru Kuroki et al.	病理診断科	Detection of Treponema pallidum by immunocytochemistry of cervical smear: A case report	Diag Cytopathol. 2021 Dec; 49(12):E443-E446	Case report
104	Takumi Kiwaki, Akira Ishihara, Takanori	病理診断科	Primary cardiac angiosarcoma directly invading the right lung: An autopsy report	Clinical Case Reports. 2021 Aug 21; 9(8):e04582	Case report
105	Kazunari Maekawa, Atsushi B Tsuji, Atsushi Yamashita et al.	病理診断科	Translocator protein imaging with 18 F-FEDAC-positron emission tomography in rabbit atherosclerosis and its presence in human coronary vulnerable plaques	Atherosclerosis. 2021 Oct 12; 337:7-17	Original Article
106	Yuichiro Sato.	病理診断科	Inflammatory lesions in placental pathology	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Jan;	Review
107	Takumi Kiwaki, Mayumi Akaki Nagayasu, Naoshi Yamada et al.	病理診断科	Congenital tracheo-esophageal transition: A previously undescribed tracheo-esophageal malformation that showed direct transition of the trachea to the esophagus	Pathology International. 2022 Feb; 72(2):144-146	Case report
108	Yasuyoshi Kuroiwa, Kazunori Kusumoto, Keita Shimata et al.	病理診断科	MRI diffusion-weighted imaging detects a fresh portal vein thrombus as a high intensity lesion in a patient with a liver transplant: A case report	Acta Radiologica Open. 2021 Dec 22; 10(12):20584601211069557	Case report
109	Yusuke Yamada, Tomohiro Abe, Hidenobu	救急科	Refractory Duodenal Bleeding Ulcers Successfully Treated with Factor XIII Transfusion	Internal medicine . 2021 Jul 15; 60(14):2217-2221	Case report
110	Hidenobu Ochiai, Katsuhiko Kanemaru, Shuntaro Matsuda et al.	救急科	A case of acute cerebral infarction with a favorable prognosis after rt-PA administration by a general physician with telestroke support	Journal of rural medicine. 2021 Apr; 16(2):119-122	Case report
111	Keisuke Kubo, Tomohiro Abe, Noriaki Kawano et al.	救急科	Acquired Thrombotic Thrombocytopenic Purpura Without Anti-ADAMTS13 Antibody Caused by Influenza A (H1N1) Virus Successfully Treated by Plasma Exchange: A Case Report	The American journal of case reports. 2021 Aug 2; 22:e932251	Case report
112	Kengo Hatanaka, Yoshito Kamiyo, Takeshi Kitamoto et	救急科	Effectiveness of multiple-dose activated charcoal in lamotrigine poisoning: a case series	Clinical toxicology . 2022 Mar; 60(3):379-381	Case report
113	Takatoshi Koroki, Tomohiro Abe, Hidenobu	救急科	Nicardipine versus nitroglycerin for hypertensive acute heart failure syndrome: a single-center observational study	Journal of rural medicine : JRM. 2022 Jan; 17(1):33-39	Original Article
114	Tomohiro Abe, Katsuhiko Kanemaru, Katsutoshi	救急科	Physician-Staffed Emergency Vehicle Crash: A Case Report	Cureus. 2022 Jan 8; 14(1):e21027	Case report

115	Shintaro Izumoto, Tomohiro Abe, Takatoshi Koroki et al.	救急科	A 48-Year-Old Man Presenting as an Emergency with Severe Back Pain, a Large Anterior Paravertebral Hematoma, and Spontaneous Rupture of the Right 9th Intercostal Artery Successfully Managed by Transcatheter Arterial Embolization: A Case	American Journal of Case Reports. 2022 Feb 16; 23:e934173	Case report
116	Shigeaki Miyazaki, Kurumi Tsuruta, Saori Yoshinaga et al.	リハビリテーション科	Effect of total hip arthroplasty on improving locomotive syndrome in hip disease patients: A prospective cohort study focused on total clinical decision limits stage 3	Journal of Orthopaedic Science. 2022 Mar; 27(2):408-413	Original Article
117	Shigeaki Miyazaki, Saori Yoshinaga, Kurumi Tsuruta et al.	リハビリテーション科	Total Knee Arthroplasty Improved Locomotive Syndrome in Knee Osteoarthritis Patients: A Prospective Cohort Study Focused on Total Clinical Decision Limits Stage 3	BioMed Research International. 2021 Jul 8; 2021:3919989	Original Article
118	Jun Nakatake, Koji Totoribe, Hideki Arakawa et al.	リハビリテーション科	Exploring whole-body kinematics when eating real foods with the dominant hand in healthy adults	PLoS One. 2021 Oct 28; 16(10):e0259184	Original Article
119	Koki Yamashita, Stuart Boggett, Yoshifumi Kodama et al.	集中治療部	The validation of a Japanese language version of the postoperative quality of recovery scale: a prospective observational study	JA Clin Rep. 2021 Apr 9; 7(1):32	Original Article
120	Tetsu Yonaha, Toyoaki Maruta, Go Otao et al.	集中治療部	The diagnostic and prognostic value of mature and total adrenomedullin for sepsis: a prospective observational study	Anaesthesiol Intensive Ther. 2021 May; 53(5):411-417	Original Article
121	Naoki Yoshikawa, Hidemi Takeshima, Masaaki Sekine et al.	薬剤部	Relationship between CYP3A5 Polymorphism and Tacrolimus Blood Concentration Changes in Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplant Recipients during Continuous Infusion	Pharmaceuticals (Basel). 2021 Apr 10; 14(4):353	Original Article
122	Shuhei Urata, Naoki Yoshikawa, Kiyotaka Saito et al.	薬剤部	Delayed methotrexate elimination in a patient with primary central nervous system lymphoma: A case report	Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics. 2021 Dec; 46(6):1796-1799	Case report
123	Hidemi Takeshima, Naoki Yoshikawa, Keiichi Akizuki et al.	薬剤部	Ursodeoxycholic acid markedly promotes the absorption of microemulsion-formulated cyclosporine A: A case report	Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics. 2022 Feb; 47(2):260-262	Case report
124	Naoki Yoshikawa, Ai Yamada, Tsubasa Yokota et al.	薬剤部	Development and Validation of an HPLC Method for Analysis of Topotecan in Human Cerebrospinal Fluid and Its Application in Elimination Evaluation of Topotecan after Intraventricular Injection	Cancers (Basel). 2021 Sep 16; 13(18):4643	Original Article

計124件

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of print やin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 申請の方法、審査の方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 6 回 (持ち回り審査は随時実施)

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 0 回 (持ち回り審査は随時実施)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回 (録画した講習をオンデマンドで視聴可)
・ 研修の主な内容 臨床研究に関する基礎知識、研究計画書の書き方、新指針の概要等	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。
また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を
開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師
に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	156人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
海北 幸一	循環器内科、 腎臓内科	教授	31年	
下田 和哉	肝臓内科、 血液内科	教授	34年	
宮崎 泰可	呼吸器内科、 膠原病・感染症内科、 脳神経内科	教授	24年	
河上 洋	消化器内科	教授	26年	
石田 康	精神科	教授	36年	
盛武 浩	小児科	教授	28年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	33年	
武野 慎祐	消化管・内分泌・ 小児外科	准教授	31年	
中目 和彦	小児外科	講師	26年	
古川 貢之	心臓血管外科	教授	27年	
前田 亮	呼吸器・乳腺外科	准教授	20年	
伊東 大	形成外科	准教授	27年	
坂本 武郎	整形外科	助教	30年	
天野 正宏	皮膚科	教授	35年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	34年	
池田 康博	眼科	教授	27年	
我那覇 章	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	准教授	24年	
桂木 真司	産科・婦人科	教授	27年	
東 美菜子	放射線科	教授	14年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	30年	
竹島 秀雄	脳神経外科	教授	38年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	28年	
佐藤 勇一郎	病理診断科	教授	31年	
細川 歩	臨床腫瘍科	教授	27年	

落合 秀信	救急科	教授	33年	
荒川 英樹	リハビリテーション科	教授	24年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 1) N S T院内勉強会 「がん悪液質の治療」 2) N S T院内勉強会 「腸内環境からみた栄養療法」 ・研修の期間・実施回数 1) 令和3年 7月27日：1回 2) 令和3年11月12日：1回 ・研修の参加人数 1) 32名 2) 123名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
医療安全管理部・感染制御部	令和3年度第1回医療安全管理・感染対策講演会	①感染部門 「抗菌薬の適正使用のために」 ②医療安全管理部門 「航空機整備におけるヒューマンエラー対策 ～安全管理へのアドバース～」	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員等	411名	講演会	年1回
医療安全管理部・感染制御部	令和3年度第2回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「医療放射線の安全管理～CTの線量指標について～」 ②感染対策部門 「標準予防策の重要性～MRSAや新型コロナウイルス感染症が教えてくれたこと～」	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員等	330名	講演会	年1回
医療安全管理部・感染制御部	令和3年度第3回医療安全管理・感染対策講演会	①感染対策部門 「血液培養検体の適切な採取について」 ②医療安全管理部門 「現場実践に活かす「臨床倫理」と「研究倫理」の考え方ーコロナ禍においてこそ「患者の権利」と「被験者の権利」を考えるー」	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員等	211名	講演会	年1回
医療安全管理部・感染制御部	令和3年度第4回医療安全管理・感染対策講演会	①医療安全管理部門 「パルスオキシメーターの取扱いについて」 ②感染対策部門 「当院の感染対策アップデート」	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員等	216名	講演会	年1回
医療安全管理部・感染制御部	業務委託先従業員に対する医療安全管理及び感染対策に関する研修	医療安全管理・感染対策について	ニチイ 文化コーポレーション ファビルス 南九州ダイケン カクイックス パラテクノ 南国リネン スーブル	251名	講演会 DVD研修	8回
医療安全管理部・感染制御部	令和3年第1回、第2回医療安全管理・感染対策講演会	令和3年第1回及び第2回の講演会を収録したDVDを上映	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員等	第1回（6月10日）上映分（148名） 第2回（8月3日）上映分（160名）	DVD上映	2回
医療安全管理部・感染制御部	令和3年第1回～第4回医療安全管理・感染対策講演会	令和3年第1回～第4回医療安全管理・感染対策講演会をまとめたもの	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員等	2300名	e-ラーニング	年1回
医療安全管理部	令和3年度特定機能病院承認要件に定めるe-ラーニング職員研修	①もし、「患者安全への提言は生かされるか」を学んだら ②医療機器の取扱について ③医療放射線の安全管理～CTの線量指標について～ ④医薬品の安全使用について	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員	1525名	e-ラーニング	年1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
医療安全管理部	医師賠償責任保険 損害保険ジャパン（株）との勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・医療事故現状（最高裁判所統計） ・地裁民事通常事件・医事関係事件認容率（令和2年度） ・国立大学病院損害賠償責任保険制度の仕組みと全体像 ・医師特約条項 ・賠償責任が発生する場合は ・裁判例 ・説明義務（手術前の説明） ・説明義務違反による損害認定 ・裁判例 説明義務違反 ・事例 ・一般的な事故対応の流れ 	医師・歯科医師 薬剤師 看護師 技師（士） 事務職員	1394名	勉強会 e-ラーニング	2回
総務課	附属病院新規採用者オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報の取り扱いについて ・患者の権利と臨床倫理 ・医療安全管理 ・診療録記載と保険診療の留意点 ・標準予防策と職業病感染防止 ・医薬品の安全使用について ・医療機器について ・SNSをめぐる個人情報保護 ・SNSをめぐる情報モラル 	新規採用職員	63名	オリエンテーション 講義及び e-ラーニング	1回
総務課	復職者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報の取り扱いについて ・患者の権利と臨床倫理 ・医療安全管理 ・診療録記載と保険診療の留意点 ・標準予防策と職業病感染防止 ・医薬品の安全使用について ・医療機器について ・SNSをめぐる個人情報保護 ・SNSをめぐる情報モラル 	1年以上	20名	e-ラーニング	随時
総務課	ロジスティクス研修会	<ul style="list-style-type: none"> ①クログロジーの記載について ②EMIS、院内EMISの緊急時及び詳細入力について ③傷病者リストの作成について ④衛星電話、簡易無線の操作方法について 	看護師 コメディカルスタッフ 事務職員	21名	講義、実習	年2回
感染制御部	部署別研修	<ul style="list-style-type: none"> ・標準予防策、手指消毒の必要性について ・リハビリで使用する器具類の消毒について ・リハビリ時の个人防护具着用の必要性について ・耐性菌検出患者等に対する接触予防策について ・新型コロナウイルス対策について 	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	23名	対面式の講義	1回
看護部	看護者の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ①看護者の倫理綱領 ②臨床における看護倫理 ③看護職の役割と責務について ④情報モラルについて 	看護師	41名	講義	1回
看護部	リフレクション	リフレクティブジャーナルを用いて、入職3ヶ月目、6ヶ月目、12ヶ月目に看護実践を振り返る	看護師	41名	各看護単位	3回
看護部	バイタルサイン	学研e-ラーニング 「バイタルサインから患者の現在と未来を見抜く」 (43分)	看護師	41名	e-ラーニング	1回
看護部	心電図	学研e-ラーニング 「心電図への苦手意識をなくそう ～患者さんを見つめて学ぶ心電図モニター～」 (45分)	看護師	41名	e-ラーニング	1回
看護部	体液バランス	体液管理に必要な基礎知識	看護師	41名	講義	1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	医療安全のための基礎技術	①～⑥の演習 ①患者確認・指示確認の方法（内服薬・麻薬） ②患者確認・指示確認の方法（注射薬） ③注射準備 ④感染予防対策 ⑤輸液ポンプ ⑥シリンジポンプ	看護師	41名	講義 演習	1回
看護部	実践前研修	①～⑦の演習 ①経管栄養法 ②導尿 ③膀胱内留置カテーテル挿入 ④浣腸 ⑤筋肉内注射 ⑥静脈採血と検体の取り扱い⑦食事介助（嚥下障害がある場合）	看護師	33名	演習	17回
看護部	フォローアップ研修	①～⑧の演習 ①摘便 ②吸引 ③人工呼吸器の管理 ④直腸内与薬（実践19、20） ⑤中心静脈内注射の管理 ⑥輸血の準備、輸血中・後の観察 ⑦インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察 ⑧死後のケア	看護師	33名	演習	1回
看護部	褥瘡予防ケア 呼吸ケア	①褥瘡予防ケアの演習 ②安楽な体位の演習 ③呼吸ケアの演習	看護師	41名	講義 演習	2回
看護部	静脈注射（初級編）	<講義> ①薬の作用、副作用について ②感染・針刺し事故防止 ③解剖学(安全な部位) ④留置針による血管確保 ⑤静脈注射の院内取り決めについて DVD視聴 <演習> ⑥血管穿刺の実際 シミュレーターを用いた演習	看護師	41名	講義 演習 静脈注射実施前に知識レベル評価	3回
看護部	静脈注射（麻薬編）	①麻薬の作用 ②疼痛コントロール ③麻薬のシリンジポンプ投与方法の注意点 ④PCAポンプの操作	看護師	41名	講義 演習	2回
看護部	静脈注射（抗がん剤編）	①抗がん剤の作用と急性期の副作用について ②曝露対策について ③血管外漏出対策について ④投与管理の実際について	看護師	41名	講義 演習	2回
看護部	救急蘇生（BLS, AED, 気管挿管） 看護単位で実施	部署の状況をふまえた急変時の対応 ・救急処置の演習	看護師	41名	講義 演習	1回
看護部	看護記録 1	①看護記録の目的・法的位置づけ ②看護記録の倫理的配慮、カルテ開示について ③当院の看護記録の記載方法について	看護師	41名	講義	1回
看護部	看護記録 2	①診療報酬に求められる記録について ②重症度、医療・看護必要度の入力方法 ③診療報酬に求められる褥瘡予防のための記録	看護師	41名	講義	1回
看護部	新卒者研修 -看護体験を語ろう！-	①看護体験の共有 ②KJ法的手法を用いた看護体験の振り返り ③看護チームの一員として、明日から取り組むべきこと	看護師	41名	グループ ワーク	1回
看護部	新卒者研修 2年目に向けての課題を見つけようー	チーム医療における看護師の役割について (事前レポート)	看護師	41名	グループ ワーク	1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	新卒者のリフレッシュ研修	現状の情報交換と意見交換	看護師	33名	グループワーク	1回
看護部	既卒者のリフレッシュ研修	現状の情報交換と意見交換	看護師	8名	グループワーク	1回
看護部	看護倫理Ⅰ	臨床での事例を通して倫理的問題を抽出する	看護師	47名	講義 演習	1回
看護部	リフレクションⅠ	プロセスレコードを用いて実践した看護場面を振り返る	看護師	47名	各看護単位	1回
看護部	認知症の人とのコミュニケーション	①認知症について ②認知症の人のコミュニケーションの特徴 ③認知症の人とのコミュニケーションのポイント	看護師	80名	講義	1回
看護部	オーラルフレイル/口腔機能から考える「食べること」	学研e-ラーニング 『オーラルフレイル/口腔機能から考える「食べること」』～NSTにおける「食べられるロづくり」～ (47分)	看護師	47名	e-ラーニング	1回
看護部	実践！抗がん薬の投与管理	外来化学療法室での実習 ①血管のアセスメント ②血管確保 ③抗がん薬の血管外漏出時の対策 ④抗がん薬投与中の管理	看護師	40名	実習 (1回に2名ずつ)	2回
看護部	静脈注射(中心静脈ポート編)	講義・演習 1) 中心静脈ポートとは 2) 中心静脈ポートからの薬剤投与について 3) 中心静脈ポート管理上の注意事項について	看護師	41名	講義 演習	3回
看護部	看護過程Ⅰ	実践した看護過程の展開を事例にまとめる	看護師	47名	事例検討	1回
看護部	チーム医療Ⅰ	チーム医療におけるメンバーの役割についてグループワークする	看護師	47名	講義 グループワーク	2回
看護部	看護研究Ⅰ	学研e-ラーニング 「看護研究とは？」(51分)	看護師	47名	e-ラーニング	1回
看護部	看護倫理Ⅱ	Jonsenの4分割法とその活用方法の学習	看護師	70名	講義 グループワーク	1回
看護部	看護倫理Ⅱ	臨床での倫理的問題を、Jonsenの4分割法を用いて分析し、カンファレンスで検討した内容をまとめる	看護師	70名	講義 グループワーク	1回
看護部	リフレクションⅡ	プロセスレコードを用いて実践した看護場面を振り返る	看護師	70名	各看護単位	1回
看護部	フィジカルアセスメントⅡ	事例を通して以下の内容を学ぶ ①臨床推論 ②呼吸と循環のフィジカルアセスメント	看護師	70名	講義 演習	1回
看護部	人工呼吸器装着中患者の看護	知識：学研e-ラーニング 「ワンステップ上の人工呼吸管理を身につける～病態に応じた人工呼吸器管理～」(45分)	看護師	70名	e-ラーニング 演習	1回
看護部	人工呼吸器装着中患者の看護	技術：集中治療部・救命救急センターでの実習	看護師	50名	e-ラーニング 演習	適宜
看護部	看護過程Ⅱ	実践した看護過程の展開を事例にまとめる 実践した内容を発表する	看護師	70名	各看護単位	1回
看護部	リーダーシップ研修	チーム医療におけるリーダーの役割について討議する	看護師	71名	講義 演習	1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	入退院支援	患者支援センターでの入退院支援の実践	看護師	72名	実習	1回
看護部	看護研究Ⅱ	①学研e-ラーニング「研究デザインを理解するⅠ・Ⅱ」視聴（60分）	看護師	73名	e-ラーニング	1回
看護部	看護研究Ⅱ	②ミニレクチャー（※ラダー申請には不要） ・「タイトル」の書き方 ・「緒言」の書き方 ・簡単な文献検索方法 ・SPSSの使い方 等	看護師	74名	ミニレクチャー	1回
看護部	プリセプター研修	①当院の新人教育プログラムについて ②プリセプターの役割について ③新人の特性に合わせた支援について	看護師	75名	講義 グループワーク	1回
看護部	【院内認定看護師：養成研修】 クリティカルケア	①侵襲に対する生体反応 ②危機介入とストレスコーピング理論 ③重症患者のフィジカルアセスメント ④倫理問題のための基本的理論 ⑤演習：挿管患者の口腔ケア 腰背部温電法 DVTの観察と予防の技術 プロトコルを用いた早期離床の進め方 ⑥事例検討：倫理的ジレンマを感じた場面 重症患者の安全・安楽を考える	看護師	30名	講義 演習 グループワーク	1回
看護部	【院内認定看護師：養成研修】 インフェクションコントロール(IC)	①標準予防策と感染経路別予防策の実際 ②感染防止技術の実際 ③医療関連感染サーベイランスの手法 ④演習：感染予防予知トレーニング 事例対応	看護師	10名	講義 演習 グループワーク	2回
看護部	【院内認定看護師：フォローアップ研修】 スキンケア	①WOC領域の最新の情報	看護師	30名	講義 演習	1回
看護部	【院内認定看護師：フォローアップ研修】 重症集中ケア クリティカルケア	①集中ケア、クリティカルケア領域の最新の情報	看護師	30名	講義 演習	1回
看護部	【院内認定看護師：フォローアップ研修】 インフェクションコントロール(IC)	IC領域の最新の情報	看護師	30名	講義 演習	1回
看護部	【院内認定看護師：フォローアップ研修】 呼吸ケア 呼吸理学療法	呼吸ケア領域の最新の情報 ※呼吸介助	看護師	30名	講義 演習	1回
看護部	アドバンス・ケア・プランニング (ACP)	①アドバンス・ケア・プランニングとは ②人生の最終段階に向けた患者の意思決定を共有する ③患者に合わせたアドバンス・ケア・プランニングの実践	看護師	20名	講義	1回
看護部	リフレクションⅢ	①自己の教育場面でのリフレクティブジャーナルを用いたのグループ討議 ②新規採用者が記載したリフレクティブジャーナルを用いたリフレク	看護師	20名	講義 演習	1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	チーム医療Ⅲ	訪問看護ステーションでの実習	看護師	中止	実習	1回
看護部	臨地実習指導者研修	①臨地実習指導者の役割について ②効果的な指導方法について	看護師	20名	講義 ロールブ	1回
看護部	問題解決Ⅲ	①問題解決技法について（例：ロジカルシンキング） ②問題解決プロセスについて （目標 組織化 計画等）	看護師	20名	講義 演習	1回
看護部	看護倫理Ⅳ	倫理的問題に関わる看護職の役割を理解できる	看護師	10名	講義	1回
看護部	問題解決Ⅳ	クロスSWOT分析の演習	看護師	10名	講義 演習	1回
看護部	チーム医療Ⅳ	中山間地域医療機関との人事交流	看護師	2名	実習	3ヶ月
看護部	英語研修	①アドバンスコース ②ベーシックコース	看護師	5名	講義	12回
看護部	学生看護補助者（SNA）新規採用者研修	・医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 ・医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解 ・看護補助者業務を遂行するための基本的な知識・技術 ・日常生活に関わる業務 ・守秘義務、個人情報の保護 ・看護補助者業務における医療安全と感染防止	学生看護補助者（SNA）研修	随時	講義 演習	適時
看護部	看護補助者研修 知識編・技術編	・医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 ・医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解 ・看護補助者業務を遂行するための基本的な知識・技術 ・日常生活に関わる業務 ・守秘義務、個人情報の保護 ・看護補助者業務における医療安全と感染防止	看護補助者（派遣）研修	140名	講義 演習	6回
看護部	学生看護補助者（SNA）研修	・医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 ・医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務の理解 ・看護補助者業務を遂行するための基本的な知識・技術 ・日常生活に関わる業務 ・守秘義務、個人情報の保護 ・看護補助者業務における医療安全と感染防止	学生看護補助者（SNA）研修	40名	講義 演習	6回
看護部	復帰者研修	医療安全 静脈内採血 電子カルテの操作 情報セキュリティ	育児休暇後復帰者	30名	講義	適宜
検査部	暴言・暴力研修会	①院内暴力に対する対応等についてスライドを用いて説明研修実施 ②暴言・暴力・クレームに繋がる発生要因、トラブルを未然に防ぐ挨拶・声掛け、暴言・悪質クレームへの対応、身の危険を感じる暴力事件発生時の具体的な対応策	医師 臨床検査技師 看護師 事務職員	①17名 ②0名	講義	年1回
検査部	危機管理マニュアル研修会	防災対策対策マニュアル、BCPIについてスライドにて説明研修実施	医師 臨床検査技師 看護師 事務職員	17名	講義	年1回
検査部	LIS研修会	①HOPE-LAINS-GXシステムを用いて実際に使用しながら研修実施 ②スライドおよび口頭による説明研修	医師 臨床検査技師 看護師 事務職員	①1名 ②19名	①実技 ②講義	年1回
検査部	ISO研修会	①ISO15189の4章（品質）に関する研修をスライドおよび口頭にて実施 ②ISO15189の5章（技術）に関する研修をスライドおよび口頭にて実施	医師 臨床検査技師 看護師 事務職員	①18名 ②18名	講義	年1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
検査部	心肺蘇生・AED講習会	AED使用法、一次救命手順を実技講習にて学ぶ。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う傷病者の対応について学ぶ。	臨床検査技師 看護師 事務職員	9名	実技講習	年1回
検査部	時間外・緊急検査業務研修会	生化学検査、血液・血清検査、尿検査、細菌検査、生理検査における時間外・緊急検査の研修をスライドおよび口頭で実施	臨床検査技師	19名	講義	年1回
検査部	検査部抄読会	症例報告、英語の文献紹介、研究報告等	医師 臨床検査技師	10～20名	講義	年13回
リハビリテーション部	リハビリテーション合同カンファレンス	R3.4.19 症例1.ERCP後膵炎,肺水腫(消化器内科) R3.5.24 症例1.AT/RT(小児科) R3.6.21 症例1.急性骨髄性白血病(小児科) 症例2.胸椎後縦靭帯骨化症(整形外科) R3.7.19 症例1.潰瘍性大腸炎(消化器内科) 症例2.脳動脈瘤破裂(脳神経外科) R3.8.23 症例1.大腿骨遠位端開放骨折(救急科) 症例2.コケイン症候群(小児科) R3.9.13 症例1.脊髄小脳変性症(脳神経内科) 症例2.乳癌(呼吸器・乳腺外科) R3.10.25 症例1.小脳性運動失調症(脳神経内科) 症例2.胸腹部大動脈瘤(心臓血管外科) R3.11.15 症例1.脳炎(脳神経内科) 症例2.股関節固定後,THA(整形外科) R3.12.20 症例1.びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫(脳神経外科) 症例2.半月板断裂(整形外科) R4.1.24 症例1.右肺下葉扁平上皮癌(呼吸器外科) 症例2.中枢神経系原発悪性リンパ腫(脳神経外科) R4.2.14 症例1.肩腱板断裂,関節鏡下棘下筋回転移行術(整形外科) R4.3.14 症例1.脳腫瘍(脳神経外科) 症例2.ステロイド性大腿骨頭壊死(整形外科)	医師、看護師、療法士、ソーシャルワーカー	30名	カンファレンス	年12回
リハビリテーション部	定期勉強会	2021/4/14 動脈硬化予防の介入戦略 2021/5/12 気になる子供の早期発見・早期療育の重要性 2021/6/16 パルスオキシメーターの基礎(人工呼吸中のモニタとSpO2評価の限界) 2021/7/14 歩行分析のためのバイオメカニクス 2021/8/13 高次脳機能障害の理解と実践的介入 2021/9/15 アルツハイマー患者のADL障害 2021/10/13 体幹機能障害の神経生理学的特徴 2021/11/17 神経疾患の筋緊張評価 2021/12/15 ブローカー失語と超皮質性運動失語 2022/1/12 圧迫下の運動療法 2022/2/16 慢性疼痛患者の評価と治療法 2022/3/16 睡眠時無呼吸症候群に多雨する最新知見	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	25名	勉強会形式	年12回
リハビリテーション部	高次脳機能障害勉強会	4月 : 英論文抄読(覚醒下手術と神経膠芽腫) 5月 : 和文献抄読(リハビリテーション論文の書き方) 6月 : 症例検討、和文献抄読(発達障害と感覚情報処理) 7月 : 和文献抄読(失認に対する評価と訓練立案) 8月 : 症例検討(神経膠芽腫患者の左USNに対するアプローチ方法) 9月 : 症例検討(自動車運転に関する高次脳機能評価) 11月 : 文献抄読(特発性水頭症と認知機能 ~ガイドラインを中心に~) 12月 : 症例検討(低酸素脳症の記憶障害に対するメモリーノート導入について) 1月 : 和文献抄読(言語機能の機能局在) 2月 : 和文献抄読(記憶障害の評価方法について) 3月 : 和文献抄読(CBAについて)	作業療法士 言語聴覚士	作業療法士 言語聴覚士 (12名)	文献抄読 症例検討	年11回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
リハビリテーション部	作業療法士勉強会	(R3.4.13)文献紹介(紙の手帳の脳科学的効用について) (R3.5.11)呼吸器リハビリテーションについて (R3.6.8)関節リウマチの作業療法について (R3.7.13)到達把持運動について(Pre-shaping運動) (R3.8.10)脳画像情報を作業療法に活かす 最新のADL評価について (R3.9.14)AMPSについて (R3.10.12)血圧(収縮期血圧・拡張期血圧・平均血圧)の臨床的意義について (R3.11.9)日常生活活動における関節可動域について (R3.12.8)事例検討(記憶障害でメモリーノートを使用した事例) (R4.1.11)慢性疼痛に対する運動療法について (R4.2.8)アルツハイマー型認知症患者のADL障害について (R4.3.8)事例検討(疼痛が強く離床が進まない事例)	作業療法士	作業療法士 全員(6名)	論文・解説や個人作成資料を基にした講義形式	年12回
リハビリテーション部	理学療法士勉強会	5月:胸郭・肺の解剖生理学、人工呼吸器について 6月:物理療法の適応、機器の使い分け・使い方 7月:脳血管リハの概要、脳腫瘍、HAL 8月:呼吸器リハビリ、ポジショニング、呼吸介助実技演習 9月:脊柱体幹の基礎・機能解剖、運動指導・徒手療法の実際 10月:GCU・NICUにおける新生児リハビリテーションについて 11月:モニター心電図、不整脈、リハビリテーション医療における安全管理 2月:体幹の評価と治療 3月:パーキンソン病に対するリハビリテーション	理学療法士	理学療法士 全員(16名)	講義形式	年9回
リハビリテーション部	言語聴覚療法士勉強会	R3.04.15 症例検討(摂食嚥下障害 評価法・食形態) R3.06.11 症例検討(プレート固定術後の経口摂取再獲得に向けてのアプローチ) R3.07.29 症例検討(左側頭葉脳腫瘍後に失語症を呈した症例) R3.08.19 文献抄読(リハビリテーションサマリの書き方) R3.09.30 文献抄読(発達障害 状態別対応のコツ～行動の問題～) R3.10.25 社会保険制度とリハビリテーションについて R3.11.25 症例検討(地誌的見当識障害について) R3.12.09 症例検討(神経サルコイドーシスによって摂食下障害、構音障害を呈した一例) R4.01.11 症例検討(神経サルコイドーシスによって口腔期を中心とした嚥下障害、構音障害を呈した症例) R4.02.17 症例検討(神経サルコイドーシスによって口腔期を中心とした嚥下障害、構音障害を呈した症例)	言語聴覚士	言語聴覚士 全員(5名)	講義形式	年11回
放射線部	診療放射線技師業務研修	COVID19感染対策	診療放射線技師	10名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	治療室-MRI室移乗トレーニング	診療放射線技師	16名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	車椅子患者を想定したRI検査トレーニング	診療放射線技師	6名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	感染経路別の感染対策方法について学ぶ	診療放射線技師	12名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	車椅子患者の造影MRI検査時の入室前確認	診療放射線技師	9名	講義及び実技	1回
放射線部	診療放射線技師業務研修	レベル3PPEの着脱研修	診療放射線技師	13名	講義及び実技	1回
ME機器センター	医療機器安全管理研修	人工心肺装置及び補助循環装置 人工呼吸器 血液浄化装置 除細動器(AED除く) 閉鎖式保育器	医師 看護師 臨床工学技士		講義 OJT	複数回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
栄養管理部	NST院内勉強会	①・悪性腫瘍治療患者の「食べられる」をサポート ～ひなた食の取り組み評価～ ・がん悪液質の治療 ～エドルミズという選択肢～ ②・教育講演：新型コロナウイルス感染症診療 ・特別講演：腸内環境からみた栄養療法	「医師」 「看護師」 「薬剤師」 「臨床検査技師」 「理学療法士」 「作業療法士」 「管理栄養士」 「事務職員」 「その他学生等」	①32名 ②123名	オンライン講演会	年2回
病理部	LIS研修会	用語の定義、アクセス権限、マスタ変更の手順、HIS・LIS通信トラブル時の対応について	病理部職員	8名	講義	1回
病理部	危機管理マニュアル研修会	防災対策対策マニュアル、BCPについて	病理部職員	8名	講義	1回
病理部	暴言・暴力研修会	院内暴力について	病理部職員	8名	講義	2回
病理部	品質マネジメントシステム	品質マネジメントシステム（Quality Management System, QMS）について	病理部新入職員	1名	講義	1回
病理部	第11回宮崎病理診断フォーラム	リンパ節	病理部職員	35名	講義	1回
病理部	臨床検査技師ワークショップ	鏡検実習	病理部職員	10名	実習	1回
輸血療法委員会	輸血療法セミナー	特別講演 「輸血実施手順の再確認」	医師 看護師 薬剤師 診療放射線技師 臨床検査技師 事務職員 等	31名	講演 臨床講義室105とWebのハイブリッド形式	1回
がんセンター	第1回 宮崎大学がんセミナー	○ 化学療法・分子標的療法概論 ○ 放射線療法概論	院内の医療関係者・学生の希望者	35名	講義	1回
がんセンター	第2回 宮崎大学がんセミナー	○ がんの生物学・分子生物学病理学 ○ 腫瘍免疫学	院内の医療関係者・学生の希望者	15名	講義	1回
がんセンター	第3回 宮崎大学がんセミナー	○ 遺伝性腫瘍 ○ 泌尿器科腫瘍	院内の医療関係者・学生の希望者	18名	講義	1回
がんセンター	第4回 宮崎大学がんセミナー	○ 脳腫瘍 ○ 頭頸部がん	院内の医療関係者・学生の希望者	22名	講義	1回
がんセンター	第5回 宮崎大学がんセミナー	○ 食道がん・胃がん（薬物療法） ○ 食道がん・胃がん（手術療法）	院内の医療関係者・学生の希望者	21名	講義	1回
がんセンター	第6回 宮崎大学がんセミナー	○ 骨・軟部腫瘍 ○ 緩和医療概論	院内の医療関係者・学生の希望者	10名	講義	1回
がんセンター	第7回 宮崎大学がんセミナー	○ 精神腫瘍学（サイコオンコロジー） ○ 小児がん	院内の医療関係者・学生の希望者	25名	講義	1回
がんセンター	第8回 宮崎大学がんセミナー	○ 肺がん（薬物療法） ○ 肺がん（手術療法）	院内の医療関係者・学生の希望者	26名	講義	1回
がんセンター	第9回 宮崎大学がんセミナー	○ 乳がん ○ 婦人科がん	院内の医療関係者・学生の希望者	22名	講義	1回
がんセンター	第10回 宮崎大学がんセミナー	○ 大腸がん（手術療法） ○ 肝がん（手術療法）	院内の医療関係者・学生の希望者	11名	講義	1回
がんセンター	第11回 宮崎大学がんセミナー	○ 胆道がん・膵がん（薬物療法） ○ 胆道がん・膵がん（手術療法）	院内の医療関係者・学生の希望者	18名	講義	1回
がんセンター	第12回 宮崎大学がんセミナー	○ 皮膚がん ○ 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	院内の医療関係者・学生の希望者	15名	講義	1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
がんセンター	第13回 宮崎大学がんセミ	○ 大腸がん（薬物療法） ○ 肝がん（薬物療法）	院内の医療関係者・学生の希望者	7名	講義	1回
呼吸器内科	第7回 医学生・研修医のための呼吸器診療ABC	学内外の呼吸器内科専門医が、医学生・研修医を対象に、肺炎、肺癌、間質性肺疾患などの知識と気管内挿管や気管支鏡などの技能を学ぶ内容。	医師・医学生	33名	シュミレーター・講義	1回
消化器内科	内科研修医合同カンファ	毎月内科の各分野ごとに、症例検討⇒レクチャーの形式で行う。	研修医 各内科学講座所属医師	約20人	講義室	1回
脳神経内科	研修医向け脳神経内科勉強会	①脳波、②脳卒中画像、③めまい、④筋電図、⑤神経診察、⑥頭痛	初期研修医	5-10名	講義	約2回/月
外科	合同カンファレンス	血管形成・維持機構のベーシックサイエンスから臨床へ	医師	40	講演会	1回
眼科	第28回九州神経眼科セミナー	教育講演 ショートレクチャー 日本神経眼科学会認定講習会 症例検討会	医師、コメディカル	105名	講演	1回
眼科	第88・89回宮崎大学眼科研究会	特別講演 一般講演	医師	第88回： 77名 第89回： 67名	講演	2回
眼科	第5回・第6回・第7回・第8回 眼科診療 Update 2019	特別講演 一般講演	医師	57名 67名 44名 52名	講演	4回
眼科	宮崎県黄斑疾患研究会	特別講演 一般講演	医師	12名 58名	講演	2回
整形外科	エコー勉強会	スライドの講義に加え、ハンズオンで実際にエコーを当てて講習を行った。	整形外科3年目医師、研修医	13名	講習会	1回
整形外科	宮崎外傷研究会	①一般講演「当院における外傷性大動脈損傷の治療経験」 ②特別講演「Acute Care Surgeon が知っておくべき胸部外傷の外科的治療戦略」	医師 看護師 診療放射線技師 臨床検査技師 臨床工学技士 理学療法士	63名	講演及びディスカッション	1回
薬剤部	病棟別薬剤研修会	第4回 病棟別薬剤研修会を計画中	各病棟医師、看護師	100～120名	スライド、もしくはハンドアウトを用いた研修会	年間12～15回程度を予定
医療人育成推進センター	全職員対象BLS講習会	一次救命処置（BLS）教育講習	医師、看護師、メディカル職員	67名	実技講習	10回
総務課	START式トリアージ講習会	①METHANEに従った情報収集や伝達について ②クロノロジーの記載について ③EMISの緊急時及び詳細入力について ④傷病者リストの作成について	看護師 コメディカルスタッフ 事務職員	①20名程度 ②10名程度	講義、実習	年1回
総務課	事務職員対象傷病者搬送研修	ストレッチャーや車いすの使用方法について	事務職員	未定	講義、演習	年1回

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 帖佐 悦男
管理担当者氏名	山里 善彦

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び各診療科	<ul style="list-style-type: none"> 原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 エックス線写真は電子媒体に保存 診療録等を本院外に持ち出さない
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	電子媒体で保存
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療安全管理マニュアル内保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課 医療安全管理部	電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課 感染制御部	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び感染対策マニュアル内保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課 感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課	・調剤室、製剤室、薬剤部 教授室にて紙媒体で保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	手順書：全部署 実施状況：薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	・各部門に電子媒体で保管
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	各部門	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	各部門			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	・薬剤部教授室にて紙媒体で保管
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	・電子媒体（診療情報管理部フォルダ内）保存及び診療情報管理部内鍵付きキャビネットに保管
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	総務課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	帖佐 悦男
閲覧担当者氏名	山里 善彦
閲覧の求めに応じる場所	管理棟3階 ミーティングルーム
閲覧の手続の概要	
・内部者については権限を付与し、閲覧を制限している。 ・外部者については、特に定めていない。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理の基本的考え方 2. 医療に係る安全管理体制 3. 職員研修・教育 4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策 5. 医療事故等発生時の対応 6. 深刻な感染症事例発生時の対応 7. 患者等との情報の共有 8. 患者からの相談の対応 9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。 2. 医療安全管理マニュアルに関する事。 3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。 4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。 5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。 6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。 7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。 8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関する事。 9. 医療安全管理部の業務に関する事。 10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 12. 医療放射線に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 13. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年16回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する講演会（4回） <ol style="list-style-type: none"> 第1回 「航空機整備におけるヒューマンエラー対策 ～安全管理へのアドバイス～」 第2回 「医療放射線の安全管理～CTの線量指標について～」 第3回 「現場実践に活かす「臨床倫理」と「研究倫理」の考え方 -コロナ禍においてこそ「患者の権利」と「被験者の権利」を考える-」 第4回 「パルスオキシメーターの取扱いについて」 2. 講演会(第1回、第2回)のDVD上映（9回） 3. 講演会e-ラーニング(第1回～第4回)（1回） 4. 新規採用者研修（1回） 5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修e-ラーニング（1回） 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 医療安全管理部会議、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等
 2. リスクマネージャー会議での事例報告及び周知
 3. 作業標準の作成
 4. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し
 5. 院内ラウンド
 6. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告
 7. 院内全死亡例についての検証

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に対する基本的な考え方 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の予防に関すること。 2. 感染の情報の収集に関すること。 3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。 4. 防疫対策の確立に関すること。 5. その他感染対策についての重要事項に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年16回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理・感染対策に関する講演会（4回） <ul style="list-style-type: none"> 第1回 「抗菌薬の適正使用のために」 第2回 「標準予防策の重要性～MRSAや新型コロナウイルス感染症が教えてくれたこと～」 第3回 「血液培養検体の適切な採取について」 第4回 「当院の感染対策アップデート」 2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（9回） 3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回） 4. 各部署との勉強会（1回） <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション部 5. 新規採用者研修（1回） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備（有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部での検討、現場へのフィードバックを行う。 2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が感染制御部へ報告する。感染制御部は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し 	

病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。

3. 感染制御部による定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策および抗菌薬適正使用支援の推進を図る。
4. 新型コロナウイルス感染の流行により、感染患者の受け入れ体制の整備、対応マニュアルの作成、周知、PPE着脱訓練などの活動を継続して行った。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回医療安全管理・感染対策講演会「抗菌薬の適正使用のために」 2. リスクマネージャー会議 アドバンスドセミナー「カリウム製剤の取り扱いと安全対策」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用 2. 医薬品の購入 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 部署における麻薬の運用 5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 6. 病棟における医薬品の管理 7. 外来における医薬品の管理 8. 手術部の医薬品管理 9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い(収集、提供等)に関する事項 10. 救急部門・集中治療室・総合周産期母子医療センター 11. 輸血・血液管理部門 12. 生命維持管理装置領域 13. 臨床検査部門 14. 画像診断部門 15. 他施設との連携 16. 事故発生時の対応 17. 教育・研修に関する事項 18. 薬剤部部門 <p>上記項目に関し、手順書改定時にチェック表を用いて全項目、各担当者が業務手順書を確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 院内製剤 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医薬品専門部会で情報を把握・収集および審議し、医療安全管理委員会へ報告を行う。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明 2. 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処 3. 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて 4. 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して 5. 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して 6. 診療用高エネルギー放射線発生装置(直線加速器等) 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応 7. 診療用放射線照射装置(ガンマナイフ等) 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 2. 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 3. 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 4. 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 5. 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 6. 診療用高エネルギー放射線発生装置(直線加速器等) メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 7. 診療用放射線照射装置(ガンマナイフ等) メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>医療安全管理責任者の配置を、「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」に明記している。併せて、医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する文言を明記している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <p>医薬品情報室の担当者にPMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度、緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>調剤時や病棟業務において未承認を含む使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医薬品専門部会、医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者の指名の有無（ 有 ） ・ 担当者の所属・職種：（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（ 有 ） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： <p>インフォームド・コンセントの対象となる医療行為について説明と同意に関する記録・同席の基準が遵守されているか質的監査を実施している。リスクSについては記録・同席とも必須とし、リスクAについては看護師の同席は原則とし同席できない場合は説明後に関りを持ち、患者等の理解を記録に残すことを指導した。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <p>診療録チェックシートを用いた質的監査を多職種で実施し点数判定した評価を診療録監査・IC委員会へ報告し、指導内容については医療安全管理委員会、病院連絡会議で周知指導した。リスクマネージャーについては所属する診療録の記載を確認する自己評価を実施した。</p> <p>（指導内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療録記載率向上と適正な記載記録の促進 2. インフォームドコンセント、説明同意書について共通様式での標準化記載 3. 侵襲を伴う医療行為の本人家族への説明を共通様式「説明記録」に記録することを周知する 	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 10 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 9 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名 うち看護師：専従（ 3 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関すること。 2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。 3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。 4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。 5. 患者からの医療に係る相談に関すること。 6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。（入院患者の全死亡例報告の検証を含む） 7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。 8. 医療安全のための教育・研修に関すること。 9. 医療安全管理マニュアルに関すること。 10. 医療安全の確保に資する診療内容のモニタリングに関すること。 11. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。 12. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。 13. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。 <p style="margin-left: 20px;">上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> 	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ） ・ 活動の主な内容： <p style="margin-left: 20px;">前年度、診療科から1件の申請を受け、高難度新規医療技術評価委員会を開催した。委員会の意見を踏まえ、提供の適否を決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。また当該技術が適正な手順に基づいて提供されたかについては、報告書の提出を受け、実施状況を確認し病院長へ報告を行った。</p> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ） 	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）
- ・ 活動の主な内容：
前年度、診療科から1件の申請を受け、未承認新規医薬品等評価委員会を開催した。委員会の意見を踏まえ、提供の適否を決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。なお、現時点において当該医療の提供は行われていない。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：217 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 95 件（3b 以上）
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
入院患者の院内死亡事例については、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至った経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否か判定したものを毎月開催される委員会にて審議している。特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象(3b 以上)についても同様に、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（ 無（紙面調査のみ）（病院名：琉球大学病院））
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 無（紙面調査のみ）（病院名：熊本大学病院））
- ・ 技術的助言の実施状況
指摘等特になし。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
宮崎大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項により、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

1. 医療安全管理に関する講演会（4回）
第1回、第2回、第3回、第4回
2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（9回）
3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）
4. 新規採用者研修（1回）
5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修e-ラーニング（1回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者：
2021年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）
医療安全管理責任者：
2021年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）
医薬品安全管理責任者：
2021年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）
医療機器安全管理責任者：
2021年度 特定機能病院管理者研修（動画視聴 1日間）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2、3rdG:Ver.1.1）
認定期間：2018年2月17日～2023年2月16日

※2022年12月（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院3、3rdG:Ver.2.0）を受審予定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院のホームページに、認定情報及び結果の公表を行った。（改善要望事項なし）

・ 評価を踏まえ講じた措置

改善要望事項はなかったが、評価によって明らかになった課題等の解消のため、人員の増員を始めとし継続した改善への取り組みを行い、病院サービスの質の向上に努めている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許を有している者 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有すること。 3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院又は当院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。 4. 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有する者 医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
迫田 浩一郎	宮崎大学 理事 (総務担当)	○	医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有
伊達 紫	宮崎大学 理事 (女性活躍・人財育成担当)		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有
片岡 寛章	宮崎大学医学部		医学部附属病院長候補者選考会	有

	長		議細則第3条第2号に基づく役職指定者	
竹島 秀雄	宮崎大学(運営審議会構成員)		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第3号に基づく運営審議会構成員からの選出	有
盛武 浩	宮崎大学(運営審議会構成員)		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第3号に基づく運営審議会構成員からの選出	有
川名 隆司	公益社団法人宮崎市郡医師会長		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第4号に基づく学長が委嘱する学外有識者宮崎市郡医師会長として、医療・保健・福祉 全般に豊富な知見を有する	無
重黒木 清	宮崎県福祉保健部長		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第4号に基づく学長が委嘱する学外有識者宮崎県の医療に係る担当責任者として、医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	無
平野 かよ子	宮崎県立看護大学学長		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第4号に基づく学長が委嘱する学外有識者教育に関する有識者として、豊富な経験と高い識見を有する	無
福満 美和	宮崎大学(医学部附属病院看護部長)		医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第5号に基づくその他学長が必要と認める者	有

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する事項を審議 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院連絡会議等で周知している ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに掲載 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
帖佐 悦男	○	医師	病院長
海北 幸一		医師	循環器内科科長
菊池 正雄		医師	腎臓内科科長
下田 和哉		医師	血液内科科長
塩見 一剛		医師	脳神経内科科長
宮崎 泰可		医師	呼吸器内科科長
山口 秀樹		医師	内分泌・代謝・糖尿病内科科長
梅北 邦彦		医師	膠原病内科科長
高城 一郎		医師	感染症内科科長
河上 洋		医師	消化器内科科長
石田 康		医師	精神科科長
盛武 浩		医師	小児科科長
七島 篤志		医師	肝胆膵外科科長
武野 慎祐		医師	消化管・内分泌・小児外科科長
中目 和彦		医師	消化管・内分泌・小児外科科長
古川 貢之		医師	心臓血管外科科長
前田 亮		医師	呼吸器・乳腺外科科長
伊東 大		医師	形成外科科長
坂本 武郎		医師	整形外科科長
天野 正宏		医師	皮膚科科長
賀本 敏行		医師	泌尿器科科長

池田 康博		医師	眼科科長
我那覇 章		医師	耳鼻咽喉科科長
桂木 真司		医師	産科婦人科科長
東 美菜子		医師	放射線科科長
恒吉 勇男		医師	麻酔科科長
竹島 秀雄		医師	脳神経外科科長
山下 善弘		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯科科長
佐藤 勇一郎		医師	病理診断科科長
久富木 庸子		医師	輸血・細胞治療部長
落合 秀信		医師	救命救急センター長
荒川 英樹		医師	リハビリテーション科科長
此元 隆雄		医師	遺伝カウンセリング部長
細川 歩		医師	がんセンター長
谷口 正彦		医師	ME機器センター長
永田 賢治		医師	肝疾患センター長
吉村 学		医師	地域総合医育成センター長
板井 孝一郎		教授	臨床倫理部長
榮 建文		医師	I V Rセンター長
永田 順子		歯科医師	口唇口蓋裂・口腔育成センター長
鈴木 斎王		医師	患者支援センター長
綾部 貴典		医師	医療安全管理部長
児玉 由紀		医師	総合周産期母子医療センター長
近藤 千博		医師	コミュニティ・メディカルセンター長
小松 弘幸		医師	医療人育成支援副センター長
金氏 毅		医師	周術期口腔ケアセンター長
池田 龍二		薬剤師	薬剤部長
福満 美和		看護師	看護部長
山里 善彦		事務職	事務部長
陪席			
菱川 善隆		医師	医学部長
水口 麻子		医師	病院長補佐
猪崎 みさき		臨床検査技師	検査部技師長
小味 昌憲		診療放射線技師	放射線部技師長
竹ノ内 博之		臨床検査技師	輸血・細胞治療部技師長
野口 裕史		衛生検査技師	病理部技師長
宮崎 茂明		理学療法士	リハビリテーション部技士長
小田 裕一		臨床工学技士	ME機器センター臨床工学技士長
笹葉 啓子		管理栄養士	栄養管理部副部長
奥村 学		薬剤師	医療安全管理部副部長
神田 久美子		看護師	医療安全管理部副部長
甲斐 由紀子		看護師	医療安全管理部
久保 敦子		看護師	理事補佐
小田 浩美		看護師	副看護部長（医療安全担当）
中山 雄貴		看護師	感染対策師長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
大学ホームページに掲載

- ・ 規程の主な内容
 - 病院長は、本院の管理運営を総括し、所属職員を監督する。
 - 病院等は、本院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限を有する
 - 科長や部長等の任命権限
 - 科長及び副科長の解任権限

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長 9名（働き方改革・医療情報担当、医療安全管理担当、経営企画担当、診療担当、教育研究担当、地域医療連携担当、女性・若手医師担当、看護担当、事務担当）
 - 病院長補佐9名（災害・地域貢献担当、メディカルスタッフ担当、薬剤部長、総務課長、管理課長、医事課長、医療支援課長、総務医事課長、女性医師担当）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
大学で管理者研修を実施している

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ①医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について医学部附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。 ②委員会は必要に応じて、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるようよう意見を述べる。 ③委員会は上記業務について、その結果を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有） ・ 委員名簿の公表の有無（有） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法： <ul style="list-style-type: none"> 本院ホームページに掲載 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院 安全管理部	○	医療安全管理有識者	無	1
柏田 芳徳	柏田法律事務所		法律に関する識見者	無	1
森川 輝美	市民活動団体就労 支援アストモス		医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
大学業務の監査、分析に関すること。
大学業務の指導、改善に関すること。

- ・ 専門部署の設置の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ）

- ・ 公表の方法
本学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項 組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項 ・ 会議体の実施状況（ 年10回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（ 年10回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 本学ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・ 通報件数（年〇件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・ 周知の方法 本院ホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションオーダーを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。</p> <p>診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。</p> <p>手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。</p>	